

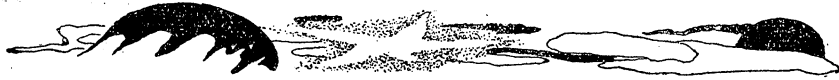


# 茨城統計 (七月號目次)

表紙	關東の名峰筑波山	紙	一
口繪	統計協會新會長——國勢調査に於ける安藤知事の訓示——佐野村の麥作柄決定——縣外視察グラフ	口	一
國勢調査と選舉	卷頭言	國勢調査と選舉	一
切實なる國家社會の要望	茨城縣統計協會々々長山本秋廣	切實なる國家社會の要望	一
茨城縣統計の「躍進」を希望す	農林省堀口四良次	茨城縣統計の「躍進」を希望す	一
房總半島から耀ようお江戸へ	統計協會の縣外視察旅行	房總半島から耀ようお江戸へ	一
統計模範町村訪問記	惱まし降雹被害	統計模範町村訪問記	一
慘害のドン底から奮ひ起つた柴崎村	納稅完納三十年の佐野村	慘害のドン底から奮ひ起つた柴崎村	一
統計行事	メートル換算法	統計行事	一
實務道場	統計調査の榮	實務道場	一
	ゴハンを腐らせぬ法		一



統計相談所	誌上質疑	統計相談所	一
興味ある懸賞募集	本縣の人口	興味ある懸賞募集	一
國勢調査宣傳ポスター	重要性を持つ今回の國勢調査	國勢調査宣傳ポスター	一
縣下の首腦を集めて	國勢調査事務打合	縣下の首腦を集めて	一
地方統計課長會議	安藤知事の訓示——指示事項——注意事項	地方統計課長會議	一
各地統計雜信	優良町村視察團	各地統計雜信	一
迸ばしる感激の言葉	村松村、大内重良——高道祖村、飯岡榮助——鹿島村、小林靜——斗利出村、野口義一郎——九重村、倉田清之助	迸ばしる感激の言葉	一
統計關係者異動	舊記より	統計關係者異動	一
林産六百十萬圓	關東區統計事務協議會	林産六百十萬圓	一
短歌	佛柳	短歌	一
川柳	寄贈圖書	川柳	一
編輯後記	カッ	編輯後記	一
	富岡如夢		一
	大關やゑ子		一



### 國勢調査と選舉

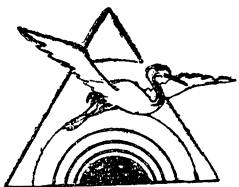
縣會議員選舉は、今秋九月二十五日を以て執行され、次いで十月一日には國勢調査が行はれる。その間、僅かに五日、しかもこの選舉に於ける最後の五分時とも稱すべき最も重要期にある九月二十一日、縣下六千七百の調査員によつて準備調査が一齊に行はれる。勿論、調査員は戸別訪問の上、親しく各戸につき調査を行ふものである。

X  
X  
しかしして是等國勢調査員は、有能公正なる統計調査員と、地方有志を以て之に充て、調査の遂行に遺憾なきを期するものであるが、斯の如く地方の中堅人物が、選舉間際に、大ビラで戸別訪問が出来るといふところから、たとへ意識的に選舉運動がましき行爲に出てざる迄も、その一擧一笑すら取りやうによつては重大なる意味を、相手方に感得させる懼れがあるとなし、杞憂を抱くものあるやに聞く。

X  
一應尤もらしいことではあるが、少くとも統計調査員にありては、平素の訓練も届いてゐる、國勢調査が重要な國家事業であつて、その一部を擔當する調査員の任務の如何に重大であり、誠實一途決して他意あるべからざる位は夙に辨へてゐる筈だ。

X  
我等は常に統計調査員諸君に全幅の敬意を表し、萬遺策なかるべきことを信ずるものであるが、偶々選舉の異常時に際會するのであるから、思はざる誘惑等絶無とも限らない、此の上とも層一層戒心して職務を遂行するやう特に注意すべきである。

X  
X  
況んや選舉肅正については國を擧げての大いなる運動となつてゐる。諸君は先づ自ら戒めて選舉も國調も、共に有終の美をなさしむるやう心された。



## 切實なる國家社會の要望

——會長就任に就て統計關係者各位に——

茨城縣統計協會長  
茨城縣總務部長

山本 秋 廣

今回地方官の異動に伴ひ不肖圖らずも本縣總務部長を命ぜられ同時に會則の示す所に従ひ本會會長に就任することになりましたので此の機會に於きまして縣下統計關係者諸賢に誌上を通じて御挨拶を申述べたいと存じます。晩近時勢の進展に伴ひまして正確完全なる統計に對する國家社會の要望愈々切實となり、統計事務の刷新改善は我が國に於ける最大緊要事とされるに到りました。

御承知の通り現下の農山漁村は未曾有の不況に沈淪し、加ふるに昨年には異常なる各種の災害に遭遇し、窮乏殊に甚しきものと共に中小商工業者も亦非常なる經濟的打撃を蒙り寔に憂慮に堪えざるものがあるのでありまして、是等に對し應急的施設を爲し更に恒久的根本對策を講ずることは焦眉の急務と存ぜらるゝのであります。然して之に對する有効適切なる政策を實施するに當りましては清新確實なる各種の統計が必要なのでありまして、其の成果の如何は實に吾々統計關係者の調査の正否にありと言ふも過言ではないのであります。

米の生産統計調査にありましては昭和八年に農林省令を以て調査方法の一部が改正せられまして以來、全國的に統一せられ其の調査は一層周密となり社會的信用を著しく増大し政府の米穀政策を始め農村に對する重要政策の基礎資料として充分の成績を挙げ益々其の利用を加へて參りましたことは吾々統計に關係する者として洵に御同慶に堪えざる所でありまして、一般統計調査に於きましては尙改善の余地があるばかりでなく、一般民衆の統計に對する理解の乏しきものあるは甚だ遺憾とする所であります。

本縣に於きましては昨年十月を以て本統計協會が創立され日ならずして着々其の事業整ひ更に本誌の發刊に依り縣、市町村は勿論三千八百余名の多數に上る統計調査員に到るまで、一絲亂れざる統制の下に廣汎複雑なる各種統計調査に適確なる資料を蒐集し、其の實踐大いに見るべきものあり、且縣民の統計に對する理解の一助たらしめつゝあるは洵に欣快とする所であります、然しながら今後統計に對する國家社會の要望は益々大を加へ、且之が運用も亦愈々繁きを加ふることは事明の理で、其の調査客體並範圍も次第に廣汎となり、その内容も複雑多岐を加ふるものと存ぜらるゝのでありまして殊に産業統計の調査に於きましては、其の整備充實は國家産業の振興發展に至大の關係を有するのみならず農村經濟打開に最も緊要なるものでありますから、各位は益々協心戮力以て正確完全なる調査の作成に御盡力あらんことを希望する次第であります。

又本年は國家的大事業たる國勢調査も施行せらるゝのであります、國勢調査は人口に關する諸般の事情を調査するもので之に依り社會組織や國民生活の實況を密にし、各般の施設計畫の基礎資料を得るもので實に重要な意義を有するものであります。

本縣に於きましては既に訓令を以て臨時國勢調査部も設置せられ、余も亦之が部長として各位と共に調査事務に従事することゝなつたのであります、其の調査の成績如何は直接調査の衝に當る調査員並市町村に於ける係員の今後の努力に俟つ所蓋し頗る多いのであります、之が調査の趣旨は既に行はれたる前三回の調査に依り一般民衆に於ても充分の理解あるべきも、更に周到なる準備と細心の注意とを以て遺憾なき調査を完行致したく念願して居る次第であります。



## 茨城縣統計の「躍進」を希望す

農林省 堀口四良次

【一】

我が國現下の情勢は實に多事多難なる重大時局に當面してゐるのである。されば全國民が非常の決意を以て起たねばならぬ秋であると思ふ。之れを我が農林關係方面に就て觀るに、農、山、漁村の經濟的充實を顯現し、一朝有事の際に於て、後顧の憂なきを期するが如きは、焦眉の急務と謂はねばならぬ。

米穀の自治管理、或は産繭の處理統制、或は肥料の需給統制、其の他産業組合の擴充等は、政府が此の時局に處せんが爲の工作と見るべきである。又各地方に於ても、夫れ夫れ、之等施設に呼應して各種の對策を計畫樹立し、官民協力、萬全の方途を講じつつあるの状態である。

時勢を反映し、世情を語るものは、常に統計數字である。又總ての計畫施設の基礎資料と爲るものは、吾れ等掌るところの統計數字であることは勿論である。されば我が統計界も亦、非常時に當面してゐると信するのである。

然して、吾れ等は最近、數次の統計試練を経て來たのである。即ち昨年我が國は未曾有の風、雨、水、旱、早冷等の被害に襲はれて、非常に困難したのであるが、其の被害調査の仕事は、吾れ等に課せられた一つの試練であつ

たと思ふ。彼の非常な被害に遭遇し、世人がその被害の甚大なるに驚かされてゐる間に、之れ等に關する被害調査は、迅速に、吾れ等統計關與者の手に依つて、見事に集成されて、救済施設の基礎資料となつたのであるが、其の迅速にして見事なる集成振りは、近代的統計調査の賜として、世人の認むるところとなつてゐるのである。

次に被害救済對策施設の爲めには、同年十一月臨時帝國議會の開催を見たのであるが、此の臨時議會に於て、凶作地方に對して、政府米臨時交付の法律が可決されて、其の實施を見たことは既に御承知のことと思ふ、この法律の施行に當りて、吾れ等は第二の試練に遭遇したのである、即ち政府米を交付すべき凶作地方の選定は、農林省統計報告規則に依り吾れ等が調査した、昭和九年の米の統計數字等が基準として用ひられたのであるが、吾れ等統計關與者は、この年の米の統計調査に當りて、あらゆる權力、あらゆる富貴を排して、正確なる統計を作成し、國策遂行上遺憾なきを得たのである、吾れ等が統計調査理論の教ふるところに従ひ、日頃の蘊蓄を傾けて、忠實なる統計調査執行者であり得たことは、第二の統計試練を完了したものである。

偕て、政府は今回現下非常時局の對策審議等の爲め、練達堪能の士を網羅して内閣審議會を新設した。又これと共に、専らこの審議會の議に附すべき事項等調査の爲め、内閣調査局をも新設した。現在迄に農林省より内閣調査局入りをした人々は、勅任調査官として農務局長たりし小濱八彌氏、奏任調査官として農林事務官たりし和田博雄氏である。而して此の内閣調査局に於て、内閣審議會の議に附すべき事項等調査に當りては、あらゆる場合に於て先づ要求せらるゝ所のものは、恐らく統計數字であると確信せらるゝのである。

社會に對し、正確妥當なる統計の供給を爲すは、吾れ等統計關與者の任務なりと雖も今回内閣審議會、内閣調査局の新設に依つて、一層その切なるものあるべきを思はしめるのである。これは吾れ等に課せられた、第三の統計試練であると同時に、今日こそ、統計界躍進の好機なりと信するものである。

されば此の機に於て、吾れ等統計關與者は、其の責務に對する自省を新にし、統計界躍進の時流に乗じて斯界刷



新の顯現を期さねばならぬ。

### 【二】

統計調査の衝に當るものはいつでもそうであるべきだが、現在の如き情勢下に於て、統計調査を掌るものは、特に其の自覺を高めてかからねばならぬ。

私は、平素から私共の關與してゐる統計調査に就ては、其の關與者は、總て同一組織体を爲してゐるものであると信じてゐるものである。換言すれば中央で此の仕事に従事してゐる者も、道府縣廳でこの仕事に従事してゐる者も、市町村役場でこの仕事に従事してゐる者も、はたまた、仕事の第一線に立つて、親しく實査に従事してゐる調査員の方々も、皆同一の調査組織体の一人であると思つてゐるものである。即ち日本全國に張られた、農林統計調査網の一端を各自が受持つてゐるのであると考へてゐるのである。

されば、各自はその受持の仕事に就ては、第一人者であると同時に、其の全責任者である、従つて、此れ等關與者は、各々皆、その職務たる統計調査に就ては、如何なる權力にも屈することなく、如何なる富貴にも動ずることなく、在りのまゝを、正しく調査しなければならぬ。若し此れ等關與者の一人と雖も、正しからざる調査を爲したり、或は權力富貴等に媚びて、曲學阿世の調査を爲したりするときは、それは調査結果に、不正なる影響を與へることとなり、延いて、重大なる結果を招來することとなるのである。即ち此れ等統計數字の利用者に、正しからざる判斷を與へ、この統計數字を基礎として爲されたる、總ての立案計畫は、肯綮を逸し、施設の結果は畫餅に終るとなるのである。

軍人が戦争に従ふや、命を的に、血を流して戦ふは戦場の常である、現時に於ける統計調査は、正に戦時的那にも比すべき非常時にはあるまいか！さればこれを極言すれば、吾れ等統計關與者は、平和の時に於ける戦士にもあつたと言ふことが出来るのである。非常時に於ける統計關與者よ！平和の時に於ける戦士よ！此の現實に活眼を開き、須らく、乃公茲にあらずんば吾が農林統計を如何せんかの熱意と、誠意とを兼備せられることが肝要である。

### 【三】

統計調査の完璧を期するには、先づ統計關與者の熱意と誠意に俟つべきは明なるところなるも、統計調査は性質上、他の仕事と異なるところあるを以て、その理論と實務に通ぜざれば完きを得ることが出来ない。

統計調査が、他の仕事と異なるところは、調査並に整理集計上、一種の技術を伴ふことである。山を抜く力、天地を覆ふの氣力外に、更に調査に對する充分なる理解力を備へ且つ計數的實務に通じてゐることが必要である。農林省統計調査は原則として、實地調査に依ることを建前としてゐる。それ故、實査に當りては、調査員の方々は、當業者に就き聴取する方法に依るか、又は自から受持調査區内を巡回して、各事象に就き調査する方法によりて、調査されるのである。當業者に就き、調査事項の書込を依頼し、又は聴取する際に於ては、單位觀察を爲す所以を充分に理解し、當業者に對しては調査の趣旨目的を充分に了解せしめ、その協力を得ることが必要である、この場合に於ける要領を、摘記すれば次の如き諸点が數へられる。

- 一、説明を親切に爲すこと
- 二、問ふことは分り易き様爲すこと
- 三、疑惑を生ぜしめざる様爲すこと
- 四、可成手數を掛けざる様爲すこと
- 五、妄りに秘密に立ち入らざる様爲すこと
- 六、少しく聞きて多くを知る様爲すこと
- 七、言語舉動を慎みて爲すこと

自から受持調査區を巡回して、各事象に就き調査する場合に於ける要領を、摘記すれば次の如き諸点が數へられる。

- 一、調査事項に就いて、廣く知識の涵養を爲すこと
  - 二、勞力を厭はず實査を爲すこと
  - 三、獨斷に陥らざる様爲すこと
  - 四、當業者の意見を參料すること
  - 五、記入の數字は一、二、三、一〇、一〇〇等の如き字を用ひ、壹、貳、參、拾、百等の如き字を用ひざること
  - 六、字劃は明瞭に記入し置くこと
  - 七、調査原票は之を一括し、散逸せざる様爲し置くこと
- 以上の諸点を心得て、調査に當れば、當業者も喜んで協力に應ずべく、従つて僅少の時間にて、調査を完了することとが出来るのである。又自から、各事象に就き調査を爲す場合に於ても、必ずや正確妥當なる結果を得らるゝこと必然である。

次に調査票等の整理検査に當りては、調査の統一を保ち、製表の便利に備へる爲め、左記の諸点に就き注意を爲すことが必要である。

- 一、記載すべき事實のなまものは「」を附すること
- 二、單位の名稱(段、畝、歩、石、斗、升、合、貫、匁、圓、錢等)を、必ず明瞭に記入すること
- 三、數位は三位毎に「、」を附すること
- 四、數が單位に満たざるものは「〇」を附すること
- 五、誤謬訂正を爲したるときは、二條線を劃し、右傍に正しき數字を明記すること
- 六、調査の日時を記入すること
- 七、調査員認印を爲すこと

次に、製表並に報告書進達等に就ては、左記の諸点に注意を爲すことが必要である。

- 一、試算を嚴密に爲し、誤算なきを期すること
- 二、比例數等を算出し、誤謬なきを期すること
- 三、或る一定又は概定の標準に對照して、正確を期すること

- 四、著しき増減あるものは其の原因を探究し、之が理由を明記すること
- 五、淨書せる報告書は、原表と嚴密に照合を爲すこと
- 六、報告期限に遅れざること
- 七、報告書の進達は、迅速に、且つ確實に、先方に到達する方法に依り進達すること
- 八、米、繭、麥に關する報告事項は、當局の指示ある迄は絶対秘密の取扱を爲し、事由の如何を問はず之が公表を爲さざること

#### 【四】

黒潮遠く流れる太平洋をへだて、アメリカ合衆國に對し、延長四十里の海岸線を有し、北邊より西南に高鈴、八溝の山なみの走る茨城縣は、私の會遊の地である。

東海道の最東端、常陸の國で一市十一郡、下總の内三郡、この總面積三百九十八方里四四、全國各府縣中廣さの順位は第二十一位である。廣さの順位では第二十一位でこそあれ、最近(昭和八年)に於ける農産物の生産總額に於ては、七千四百四十餘萬圓を産し、全國第六位に位し、有數の農産國である。耕地面積は二十一萬餘町歩を有し、米の産額は總額に於ては全國第四位なるも、陸稻のみに就て觀るときは第二位の栃木縣を遙かに凌駕して、斷然一頭地を抜き、全國第一位を占めてゐる。又麥類の産額に於ては累年王座を占めて全國第一位である。

史實、常陸介佐竹忠義が平治年中、平清盛に封を久慈郡太田城に受けてこのかた、徳川の世、出羽へ所領替へとなるまで、先づ常陸は佐竹の支配、ついで水戸の藩祖徳川頼房以降、義公光圀、烈公齊昭を経て親藩の權威が幕末まで續いた。縣南下總の三郡の中には天慶二年、平將門が猿島で偽宮事件をひき起したのを手始めに、戰禍にあへいだ跡が少くないが、徳川の統治になつて結城に水野、古河に土井が封ぜられて、落着いた。これまでが茨城縣の舊記である。

幕末から昭和維新へ——水戸二百年來の統治に醗釀された思想と、その産業風土の感化、それは新茨城縣として

今日に連続してゐる。本縣の縣是は農林水産業に重点を置く産業立國主義である様である。歴代の長官はいづれもこの方面の殖産に力癪を入れてゐる様に見受けられる。

茨城の統計、就中産業統計の整備は、比較的近代のことに屬する様である。隣縣千葉縣の統計は、茨城縣に一步を先じて整備され、從來より全國に於ても統計治績上屈指の優秀縣である。

現在の茨城縣統計主脳部は、茲に觀るところあり、千葉縣に於て出来る統計調査が境を接した茨城縣に於て出来る筈なしのモットーを得て、昭和四年以來改善に改善を重ねて目覺ましき奮闘を續け、縣民一致努力の結果、大いに其の治績を擧げて來つゝある様である。

昨年末、茨城縣統計協會の設立を見、本年より其の機關雜誌として茨城統計を刊行し、官府統計の短を補ひ、以て官民一致協力して、縣統計界のため爲すところあらんとする様である、先頃から全國中繼にて、各府縣に於ける民謠の夕が放送されてゐるが、其の内獨り茨城縣の夕に於てのみ「躍進茨城縣民謠の夕」と題されて放送された。今や、茨城縣民は、あらゆるものに於て躍進。躍進。躍進をつづけてゐるものゝ如くであるが、縣統計界に於ても、此の好機に際會して全國に先じ、躍進のレールに乗じ、斯界に發展されんことを祈つて止まない次第である。

思ひつきの

統計調査室

那珂郡菅谷村役場は今度元那珂郡自治會館へ移轉したが、町村の啓發は統計よりのモットーに則り、特に統計調査員の爲めに、専用室を設け、周囲の壁に縣關係者を初め、村長、主任者並に統計調査員十四名の名札を掲示して濃厚な統計気分を出して居るのは他町村に類のない思ひ付きである、此の室で隨時集合しては調査上の研究なり調査書類の整理等が行はれるさうで主任者軍司君及各調査員が一致して統計優良村を目指して非常な努力である。

勝景を追うて

房總半島から

燿ようお江戸へ

統計協會の縣外視察旅行

一 記者

隣接千葉は、統計文化の母ともいはれてゐる。

協會發達の歴史において、町村統計事務の成績において、容易に他の追隨をゆるさぬものあり、統計を語るものは先づ千葉を見て……と迄いはれて、成田の不動、犬吠岬の燈臺と共に誇る一つの名物となつてゐる。

茨城縣統計協會生れて最初の試みに、房總半島を巡つて、親しくその誇りを見究めて來よう、良きものあらば移して以て、茨城の庭に植ゑ附けて、我が統計林の補正に資するもよからう、百聞は一見に如かずといふので、千葉縣優良町村視察、即ち房總半島めぐりは企てられたのである。

若葉薫る絶好の旅季節、目ざすは内房外房の景勝を一路に繋ぐ半島回遊線、何んと恵まれた視察旅行ではないか。

六月十一日午前八時十五分水戸驛出發。

一行は、水戸、友部、石岡、土浦、取手と、それから千葉に先着の一團、縣下各郡の精銳をすぐつた同勢十餘人が或ひは三人、或ひは五人つゝ、ボツクリ／＼指定の最後部列車に乗込む。何のことはない、昔、敵討ちでもする一味の面々が人目忍んで相寄る光景に似たるものがある。一行の顔ぶれを披露しよう。

- △東茨城 (下大野村書記) 平戸清二
- △那珂 (佐野村書記) 根本富男
- △久慈 (賀美村書記) 助川國勝
- △多賀 (松原町書記) 沼田至之
- △鹿島 (諏訪村助役) 酒井守衛

- △行方 (麻生町書記) 正木邦司
- △稻敷 (高田村助役) 伊藤弘藏
- △新治 (藤澤村書記) 來栖吉一
- △筑波 (小野川村書記) 成島一男
- △眞壁 (下妻町書記) 小澤訓一
- △結城 (結城町書記) 海老原眞三郎
- △猿島 (幸島村書記) 赤岩啓四郎
- △北相馬 (東文間村書記) 板本惠
- △統計協會(縣屬)成瀬常吉 (囑託)富岡福壽郎

### 堂々千葉入りの意氣

水戸を立つた我等の汽車―最後部―は特に一行のために設けられたがやう、他に乘客としては二三を數ふるのみだ。賀美の助川氏は四時起きして双輪を踏んで駈けつけた、と元氣のいゝところを披露すると、佐野の根本氏は車窓に照り込む朝陽を睨んで「海は暑いぞ、千葉へ行つたら素つ裸になつて水浴びだ」と力みながら「けさはバラ／＼やつて来たがこの月の十日から十三日迄は、統計あつて以来降つたことがねえんだから安心して草履を穿いて来たよ」と、先づ統計に結論つけて旅の幸先を壽ぐなど、至極朗らかな處へ、筑波の代表小野川の成島氏が一枚加はるに及んで、世界に名高い高層氣象觀

島小野川氏も黙りこくつてゐる。そして停車場へ着くと、たまりかねたやうに喋り出す、又だまる、又喋る。

「何だい、この邊の小麥は、俺の方ぢや見たくも見られないや、こんなもの……」

「あれは高柳！、あの高柳淳之助氏のゆかりの地かな」なんて旅に出ると妙にお里心が出るものだ。

### 千葉縣廳で先づ一服

行程約四十分にして不愉快な總武線を征服して船橋へ着くお茶の水行の省線がなめらかに出て行く。東京の郊外だけにすべてが明るい。

船橋から千葉へは二十五分。先着の一團と合して千葉縣廳へ。玄關前の噴水がモダンな廳舎と映りよく、同じ形容をくりかへすやうだが、如何にも明るい感じがする。

玄關には友人丹野辨五郎氏がニコ／＼と出迎へてくれた。丹野氏は仙臺の人で東日の記者だったが、千葉の統計協會が出来ると同時に囑託となり、機關雜誌を編輯し、得意の麗筆を誌上に飾つてゐる。

この日、協會では我等のために縣會議員室に席を設けられ丹野氏や統計主任の萩原屬が、給仕君を督勵して、お茶の辨當のと歡待至らざるはない。

測所の話や、所長とエスベラント等々、國際的に伸び行く郷土の誇りに話題を賑はし、囂々たる車輪の音をもクシ飛ばすやうな勢ひだ。取手驛で下妻の小澤氏が加はる。

かくして後部車輛を完全に、茨城統計色に染めあけて、大利根鐵橋を突つ走り、堂々と千葉縣へ乗り込んだ。

かうなるとまるで、敵陣目がけて驍然に――とでもいつてみたくなるが、一行の氣持ちは屹度さうであつたに違ひない千葉の優秀は聞くこと久しいが、我等が一行として、その道にかけては多年慘憺の苦心を嘗めた一騎當千のつばもの揃へだ「何んで負けよう、負けてなるものか」

眉宇の間には、その眞剣さがあり／＼と窺はれた、職業意識から起る競争心は誰もが胸底に深刻にきざまれてゐたに違ひない。

我孫子の次ぎの柏驛で總武線のガッリンカーに乗換へた。これこそわが一行ばかりで線路工夫らしいのが一人車掌臺に乗つただけ、

「これで完全に茨城健兒で占領だ」と、誰かといふ。この占領の一語こそ征服を意味する合言葉ではあるまいか。

路線は山と山とを切り開いたやうな眞ッ直な一本道、車はガツタン、スットン、ガツタン、スットン。まるでトラツクにでも乗つたやうで、話など更にわからない、流石の成

食事が濟むと統計課長今關傳氏が見えて、極めて齒切れのいゝ句調で、一場の挨拶を述べられた。

「千葉と茨城とは大利根を挟んで相接し、沿海亦相連り、水産に農産に共通の点頗る多く、統計の事業においてもまた然り、希くは今後一層力を合せ心一つにして統計改善のために手を携へて努力したい」

と、切出して千葉縣下の統計事業に關する概要を語り、今春成田公園に統計協會大會を開くや、豫想を遙かに超越して四千餘の大衆を迎へ、しかも農林大臣の臨席をさへ得たのは、獨り主催者千葉のみが誇る現象ではない、事に統計に携はる者皆共通の喜びであると共に統計の眞價が世に認められた立派な證左として長く記録したいと感謝の言葉を頒たれた。

之に對し佐野の根本氏、小野川の成島氏その他から調査員の待遇、指導訓練、大會の効果等について課長に質す處あり交歡容易に盡きなかつたが、千葉市滞在は僅かに一時間二十分で、既に豫定の時間はつきようとしてゐる、統計課を一瞥、課員の精勤ぶりに敬意を表して玄關前の記念撮影もそこ／＼に裏門から本千葉驛に駈けつけ、やつと豫定の列車に間に合せて青堀に向つた。

### 統計模範村飯野村

千葉縣統計課の野中主事補が同車東道の役をつとめられた。汽車は勝境に沿って海べりを進む、東京灣上一碧鏡の如く、さいなみがひた／＼と線路を洗つてゐる、海士の小舟は長閑かに櫓を漕いでゐる、夢を追うやうに白鷗が水面をかすめて行くかと思れば、忽ちにして翠巒あり、忽ちにして奇嶂あり幾變轉、幾展開、内房の多趣多様な情景、車窓に送迎のいとまもない。

たゞ我等澎湃たる怒濤に見馴れて、海としいへば寄せては返す大波小波の潮吹く壯快さを思ひ泛べるのであるが、如何に東京灣内の一部とはいひ、餘りにも千葉の海は靜かに、寧ろその点一種の物足りなさを感じるものであつた。

「景はいゝが、何んだい、これは？これでも海か！」「まるで沼だね、これぢや泳ぐ氣にもなれねえや」

わが茨城は波も荒いが、口も荒い、この凄い口調で、大義名分の發祥地だの、農民何とかなんていふもんだから車中眼を障らざるを得ないのである。

木更津も過ぎ、温泉場で名高い青堀に下車、自動車で君津那飯野村を訪ねた。

飯野村は有名、統計模範村で、村長石井忠五郎氏、助役相澤廣治氏、主任書記牧野秀太郎氏等が全く心を一にして多年統計の完備に努め、村の事一切を圖面に現したり、表示したり、擧げて結論を統計に求めて自治暢達の根源と爲し、たと

足はないといつて、ひたすらに村のため、村民のために働いてゐる。

役場を新築するに當つても役場員が、納税に來たり、届を持つて來たりする村民より高いところに居るのはよくないといつて事務室をコンクリートの土間にし上一體の實を見せたなど到れりつくせり、村民の深厚なる信望を荷ひ、役場のやることには間違ひない、ときめられて村會の如きも極めて圓滿裏に、村長の説明だけで濟まさされてゐるさうだ。かうした村民の和が、この村をして統計模範村となし、優良村とした基ではあるまいか。

房州鴨川の宿の一夜

再び青堀に引返して午後四時二十五分の列車に乗る。傾きかけた西陽を受けて轡は翠に輝き、海は鮮やかに光る、模糊たる彼方遙かに夢の如く浮ぶは、觀音崎燈臺のあたりか、夜だつたら又一しほの眺めであつたらうなど、奇しき景觀を胸にゑがきつ、



鴨川海岸の曳網

へば一疋の仔犬、一羽の鶏を養ふにも統計に基礎をおかなければ駄目だといふやうに、統計に關する堅い信念を村民に植ゑつけ、一方學校と聯絡をとり、役場で作つた統計をば之を學童に提供して、或ひは圖表を作らせ、或ひは綴方に書かせ、圖畫の材料に使はせる、算術の問題に課すとか、悉く郷土教育の資料として利用させ、人間學齡に達すれば直ちに之に統計觀念を培養して、統計の貴さを自然に納得させるといふ趣向だ、知らず／＼の間に注入される生きた學問に、兒童も段々興味を感じて、學校への行き復りには役場へ寄つて「おぢさん、けふは何かありませんか」と進んで材料を求めやうになつたさうである。

序でに學校へ寄つてみると、成るほど學校には兒童の製作になるいろ／＼な圖表が出來てゐて、日々の教材に使はれてゐる、だから上級の兒童になると、自分の村には貯金が幾何ある、借金か幾何、貸金が幾何迄よくわかつてゐる、人口の構成、米麥の收穫迄よくわかつてゐて、斯々の状態だから之は斯うせねばならぬ、あゝせねばなるまいといつたやうな奮發心を涵養させたり、大いに修養になるといつてゐた。

石井村長は書記から始めて役場にあること三十年、「己れを道と思へ」をモットーとし、自分は道路である肥桶を擔いで通られても、馬糞を塗られても唯村の人の便利になり、嬉ばれ／＼それで自分の使命は達せられるのだ、之れに優る滿

眼前に展開する絶えざる變化に絶讃を饒けて、館山灣を内房の殿りに汽車は外房へ出た。

常陸の海を見た目にはまた物足りぬがそれでも外房州に出ると海の容姿が一變して白い波頭が見られる、岩に碎けて散る潮の花も見られる。

「やつと海へ出た」游子はそとろに故郷のみが戀しくまた自慢になるものである。

鴨川へ着くと、指定旅館吉田屋の番頭が先立ちで、四五人の綺麗な女中が驛に出入り、手を取らんばかりのサービスだ。鴨川は一漁村に過ぎなかつたが、回遊線の完成により海水浴場として名を賣り、旅館料理店の如きも著るしく發展し、吉田屋は町の一等旅館として海に臨んだ總三階の宏莊な建物で、季節にはまた少し早い、日蓮の遺蹟巡りや、何かの客で殆んど座敷はふさがつてゐた。

食事して街を見る。吉田屋のパンフレットに、「暗闇の沖にまた／＼く漁火もまた一

しほの眺め」とあつたが、この地、暗闇の街にまた、紅燈の火影も亦確かに捨て難い情調である。

紅い燈を追うて、次から次ぎへと、揃への浴衣は何ものをか求め漁るのであつた。ほの暗き街燈のもとに喃々の私語も聽かれた、艶のく女達の露骨な誘ひの聲も聽かれた。

「旅の恥はカキ捨てた」

なんて、捨鉢な言葉も聽かれた。

游子の血——否財布を絞る公然の曖昧屋で、本通りにはカフェーの看板をかけ、裏通りは堂々たる料理屋になつてゐる珈琲一杯なんてはいらうものなら怪しき女郎、前後左右を取りまいてグン／＼奥へ引つぱり込む、カフェーへはいつた筈の客は、何時の間にか裏通りの料理屋の二階に閉ぢ籠められてゐるといふ始末、あな恐ろしの仕掛けである。

海邊の夜は明け易く、一行は前夜の疲れもケロリと忘れて五時頃から起き出し、東文間の坂本氏の如きザンブとばかり海へ飛込んで波を切るの元氣さだ。

### 鯛のぬ鯛の浦

記念撮影して八時鴨川發、小湊に傑僧日蓮の所謂誕生寺を觀た、驛から自動車の便がある。

一行二臺のバスに分乗すると、宿屋の絆纏を着た若い男が

乗込んで何かと世話をやいたりして、愛嬌をふりまいてゐる誕生寺境内へはいると、

「これは誕生水と申しまして世界的大偉人日蓮聖人様が御誕生の折、うぶ湯に用ひられました水であります、今に清水滾々として湧き出でゝをります」

「この御門とあちらの本堂は建治二年に創建されたのであります。末寺百數十ヶ寺を有し關東著名の巨刹であります」かくて朱塗の橋を渡つたり、莊大な幾つかの堂宇をめぐつたりして、菊花の紋章祭たる御門をくゞり、そゞり立つ巨巖の間を縫うて奥まり行くと、そこに池あり、そこに靈廟あり老杉鬱として天を蔽ひ、法燈かすかにゆらぐ、爽涼の氣ひしと迫つて、茲にしてはしめて法悦の境に至つた心地がする。

若い男はいよ／＼親切に、我等を案内して

「サアこれから妙の浦です、こゝで船の切符をお買ひ下さい、船はスグに出ます、荷物は手前が番をしてをりますから御ゆるりと見ていらつしやい……サア十五人さん、頼むよ」とか何んとか、その要領のよさ、感服の外ない。はしめはうろんな奴と思つたが、かうも手際よくやられると、最後迄この男の厄介になりたい氣持にもなる。説明する迄もなくこの男は、宿屋の客引だ、けれども口先ばかりのお世辭で唯客を引張ればよいといふやうないや味は少しもない、大いに學ぶべきことであると思ふ。

妙の浦は貞應元年二月、今から七百餘年の昔、日蓮誕生の際、この海岸に清泉湧き出で、時ならざるに蓮華が咲き、

そこに無數の鯛が蜻集し、恰も日蓮の生誕を祝福するかの如く不思議を感じさせた、爾來漁民はこの區域において鯛を漁ることを自ら禁じ、鯛の棲息せる場所が明神島の附近であるところから鯛を呼ぶに明神様といひ、現に内務省の史蹟名勝天然記念物として管理されてゐる。その昔、我等の光圀公は諸國を行脚してこの靈地に遊び、

小湊の妙の浦風波もなく

潮満ち渡る法の源

と、詠まれてゐる。

我等を乗せた船は四人の船頭に漕がれて、船歌面白く明神島を指して行く、仰げば誕生寺境内の幽邃、したゝらんばかりに緑の影を藍碧の海に映してゐる、伏してのぞめば瑠璃色の水すが／＼しく、水底にはびこる海藻の一莖だに、はつきりと見わけがつく。

その清冽なる間を漕ぐこと十數分、船を停めて一人の船頭は舷を叩いた、一人は餌を撒きながら水底をキツト見つめた出ない。何もものもない。

撒き餌のまはりには名もない雑魚が御義理に集つてくる位なものだ。

船は更に沖へ進められた。

バツタン、バツタン。船ばたに音がした。

出ない。何も出ない。やつぱり駄目だ。

「何しろ大海で網を張つておくではなし、潮の加減でいろ／＼になりますよ、船頭の方ちや自由になりません」

「朝のうちなら、とても大きいのがるて、船べりへ飛び込んだりするのですが……けふは修學旅行や何かで見物が多いから明神様腹がぐらいいんでせう」

と、も一人の船頭はいふ。

「鯛の浦は「妙」の浦つて書くんだから字の如く妙なんぞと、と諦めをいふものもある。遂にこの日、この時、妙の浦には鯛がなかつた。そのかはり遙か彼方の沖合に海豚の一群ヒレを立て、近海を壓する豪壯な光景に接するを得た、船頭は「ありや鐵砲でなきや駄目でさあ」と見向きもしない。

妙の浦の右手の海岸に水産試験場經營の水族館がある、陸路海べりを一まはりするもよく、誕生寺門前からモーター船の便もある、誕生寺一圓の景勝を一時に蒐めうる絶景の地で近代式建物に相當多様な魚族を生けておく。修學旅行の學生や誕生寺詣での善男善女が踵を接して何時も一杯の觀覽者だ。

妙の浦といひ、この水族館といひ、寔に思ひつきの施設で之によつて遊覽客を喜ばせた上に相當な金儲けにもなる、千

葉の海岸にはこの種の施設が各所にある、千葉ばかりでない  
 到る處でそれ／＼考へられてゐるやうだが、本縣などでも唯  
 天然の風光佳景をのみ賣物にしないで  
 更に人工を加へて旅人を厭かせない程  
 のものでも考へてみてはどうか。

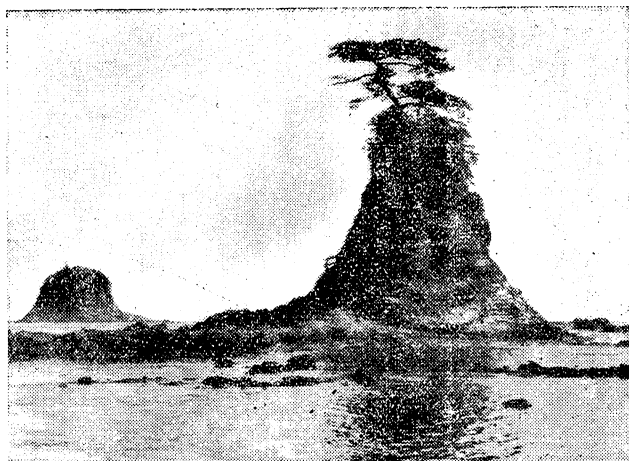
### 御宿の調査員優遇法

十時二十分小湊發、お仙ころがし、  
 勝浦等の名勝を車窓に眺めて御宿町に  
 着き、直ちに町役場を訪ねた。

驛前には古代文化の遺物とも稱して  
 よからうトテ馬車が自動車の間に伍し  
 て客を待つてゐるほどに、凡てがクラ  
 シカルな光景であるが、役場はなか  
 ー立派だ。

我等は三階の會議室に案内されたが  
 二百人位は、はいれさうな大廣間で、  
 別に二十疊敷きの日本間がある。町長

神定新吉氏も飯野村長に劣らぬ統計熱心家で、明治三十四年  
 役場書記を拜命して以來、収入役、助役を経て町長の今日迄  
 精勤實に三十五年、書記時代から統計事務を掌り、常に統計



調査員を督勵して整備改善を圖り、如何に主任が働いても、  
 やきもき骨を折つても主任だけでは何もならない、主任共々

調査員を働かせなければ成績は上るも  
 のでない、何とかして調査員の素質を  
 改善せねばならぬ、一面その勞に報ゆ  
 る處がなければならぬと考へ、主任者  
 とも計つて大正十一年町長に就職する  
 や機會ある毎に研究を重ね手當等物質  
 的の報酬は他の振合ひに倣ひ精神的優  
 遇の方法として調査員をば他の町會議  
 員、區長等の名譽職と同等の取扱ひを  
 なし、四大節の祝賀は勿論その他町の  
 浦  
 あらゆる喜び事から、道路橋梁の開通  
 式のごとき際でも悉く名譽職同様に招  
 待狀を發して優遇し、そのみか何處  
 の町村でも同じ、ヤレ道普請の用水浚  
 渫のと毎戸一人宛出張つて奉仕的勞役  
 に服する定めがあつて、町長はしめ町  
 中誰もか負擔するこの夫役も、調査員

だけは日頃の過重なる勞苦に免じて是等一般夫役を免除し、  
 以て調査員の貴重なる使命を町民に認識させ、同時に統計の  
 重要なるゆるゑんを理解さすべく努力した、五年ばかり前から

に困る」

「形は整つてゐるが内容ではヒケはとらぬ」

敵愾心に似たやうなさゝやきも、どこかで聽かれたが、思  
 ふに内容がいゝからこそ形にも現はれて來るのではあるまい  
 か、ツギハギでは統計は出來ぬ筈だ、しかも町長及び主任者  
 の説明を聽くに及んで、その努力、その熱意を窺ふに及んで  
 唯々敬服の外なかつた。

### いよくおのぼりさん

御宿から兩國迄、一踏汽車の旅。

「いよくお上りさんだ」

「存分に赤毛布を發揮するさ、ペエ／＼で押し廻すと大抵  
 の江戸ッ兒はオツたまけるよ」

ちよつと之れで重要な視察は濟んだわけだし、ヤレ／＼と  
 いふところの悠々たる道中だ。勇氣百倍、早くもネオンの影  
 に思ひをやるものもある、妙に信心氣を出して龜戸の天神様  
 に詣りたいの、淺草の觀音様のお札を受けたのと他愛もな  
 く賑はつてゐるが、朝早くからお茶のますに歩き通して將  
 に午下二点といふのに我等まだ晝食にあつからない、この回  
 遊線にはナゼか驛賣りが極めて少ない、鴨川から千葉へ出る  
 のに大網遊行かなきや辨當にありつけぬわけだ、之れには強

は採用方針も改めて出來るだけ若い潑刺たる青年を探り、現  
 に農學校出の未成年者を一人採用してゐるが、かうした青年  
 達もお祝ひ事でもあると町會議員など、同様式典に列つて町  
 の中堅をなしてゐる、この優遇ぶりをみて初めの頃には、何  
 か自分の權限でも冒されるかの如く考へる向きもあつて兎や  
 角批難するものもあつたが、今日では左様な不満不服は更  
 ない、そして一方斯うして優遇されると第一調査員の氣持ち  
 が違つてくるから、仕事は捗が行く、成績は益々あがる、主  
 任者から何の指圖をしなくとも、ひとりでの町の統計が作ら  
 れて行くといふ一舉兩得の良案で、それで金がかゝらぬのだ  
 から何れの点からみても満点だ、今春晴れの大會に前記飯野  
 村長と共に名譽ある功勞章を授けられたのも、この優遇方法  
 の卓越せるによるといはれる。

たゞに之ればかりでない、卓上に運び出された統計の書類  
 は、各種別毎に立派に裝幀されて一冊の書籍をなしてゐる、  
 尤もこゝの統計主任瀧口武男氏が誠に器用な人で、一々御自  
 分で製本されるそうだが、要は調査員諸君が努力の結晶とも  
 いふべき貴い記録だから、斯うして何時迄も保存し、移り行  
 く町の勢ひを考察する唯一の材料に資したいといふのだ。か  
 うも大切にされると勢ひ、いゝ加減なものなど作れぬこと  
 なる。

「こんなことをしてゐたら村の役場などでは第一置き場所



情我慢の一行も聊か閉口した。

空き腹をかゝへて鹿島の代表諏訪の酒井助役や結城の海老原氏、麻生の正木氏、高田の伊藤氏、下大野の平戸氏など熱心に報告書の案を練つてゐる。

蘇我から又元の道にかへつて千葉を越え船橋へ着くと、龜戸、錦糸町方面にお降りの方は省線電車にお乗換といはれるいよ／＼お江戸が近づき申したのが無性に懐しい。

東京へは割合に早く着いた。眞ッ直に九段の軍人會館にをさまつて旅装を解き、一休みしてからおのがじし、心ゆくまゝに耀きらよう帝京の夜を味はつた、それでも十時の門限迄には全部歸つて来た、日頃統計で鍛えた人達に間違ひはないものだ。

### 女護ヶ島―統計局

早忙の間に二日の行程をおへて第三日目、お別れの日が来た。

午前八時會館を出て 靖國神社に參拜、麻布の内閣統計局を視察した。

廊下に突ツ立つて、局員から統計局に就てのアウトラインを拜聽して第一に導かれたのが國勢調査に關する書類を収めた倉庫だ、8の符號を附けて茨城縣はスグ入口の處に控へて

ゐる、稻敷郡安中村だの高田村だの最初に目につくので高田の伊藤助役氏、一段と好奇の目をみはる、茲で先づ十數分實物について種々なる質問が出た。

お次ぎは一般事務の見學だ。何と若き女性のみの領域ではあるまいか、局員の話によると全局員六百五十名の内五百名は女ださうで、ソロバンをはぢいたり、計數器をあやつつたり、ペンを走らしたり、多くは手先きの仕事だから女に限るのであらう。

成島氏「女ばかりで感じがいいですなあ」  
局員「ハア和やかです」

女護ヶ島ともいふべき、この和やかなる雰圍氣の間に交つて、その課長さんから穿孔機、分類機、印刷製表機等精巧な機械の實演を見せられた。

昭和五年の中間國勢調査に我等が申告した調査書は、かくして美しい女性達の手に扱はれて、一枚つゝのカードに作られるのだが、それ等の各機關を通過するに實に五ヶ年を費して此の程漸く完成したさうである。

一世帯一枚つゝのこのカードを積る重ねると全國民六千四百四十四萬餘人分で驚くなけれ富士山の五倍となる、縦に一枚つゝ並べると東京から名古屋迄續くさうだ、紙一枚とはいへぬものである。

### 農林省で座談會

それから勞働調査課、家計調査課など二時間にわたつて詳細に見學し、大いに啓發される處あつて更に農林省を訪ねた統計課堀田統計官補の案内で省内大臣室迄一巡した。さすがお百姓の大本だけに質素なところが一行大いに氣に入つて、

「オラが大臣はこれできまや駄目だ……」

と衷心から禮讚の言葉が放たれる。課長室には我等のために特に席を設けられ、本多課長を中心に長畑統計官、高橋、堀田兩統計官補も加はつて、方形陣を作り、赤坂の御馳走を頬張りながら期せずして座談會が開かれた。

課長「諸君は千葉縣下の優良町村を視察されたさうですが平素統計事務に苦心されてる方々でありますから先の良い處、參考になる處もスグわかるし、又先方でもいろ／＼こちらから指摘されたり質問されたりすると更に改善するといつたやうな点も見出されることもあらうし、かた／＼非常に有益な事と思ひます、茨城縣ではかうした視察は度々やつてゐますか、」

成瀬屬「縣下の優良町村視察といふやうなことは統計協會創立以前からやつてゐますが縣外の視察は之が初めて、

今後は毎年計畫されることになると思ひます」

課長「それは結構です、諸君はこの見聞を活用して一層統計のために努力されたい。サテ近頃統計利用の機運が發達したとも申しませうか、一般に統計が重要視されるに至つたやうですが、何かさうした實例がありますか」

〇〇「利用大いに結構ですが政治的に使はれるのは困ります」

課員「さう／＼茨城には何かさうしたことがありましたね縣會の問題になつたとか……」

××「要するにあゝした問題も自分の縣を救濟縣に入れたいといふ縣民を思ふ熱意から出たものでせうが、多少し考へてくれるといふと思ひます」

課長「稅務署あたりで利用したいやうな傾向はありませんか」  
成島「私の方では旱害地の免租について稅務署から調査を頼まれたことがあります」

□□「私の方などには絶対にありません、たとへあつたにしても斷つてしまひます、さうでなくても我々の仕事は税金に關係があるかの如く誤解されるのですから稅務署のお先棒はつとのられません」

課長「何時でしか裁判所から訴訟上の證據に統計を見せて貰ひたいといつて来たことがあるが、法規上統計は他人に



お見え出来んというて断りました」  
 その他事務上の質問やら意見やら、さては千葉縣下の視察  
 町村に關する感想などを述べ合つて農林省を辭し、こゝに豫  
 定の行程を済して解散した。

この稿を終るにあたり、千葉縣當局、視察町村、内閣統計

局、農林省の皆様には深甚なる謝意を表し、併せてこの三日間  
 無粋な筆者をして、ほんたうに愉快に、ほんたうに氣持ちよ  
 く旅させてくれた各郡代表の諸君に衷心お禮を申上げ、再び  
 相見の日を楽しみに待つこととする。

罹電被害

昭和九年に於ける本縣は降雹、旱害  
 颱風、冷害と云ふ續けざまの災害で隨  
 分惱み抜いたが、本年もまた既に五  
 回に亘つて降雹に見舞はれ、所によつ  
 ては連續數回の被害に打ちひしがれた  
 惨めな町村さへある、統計課で調査し  
 た被害状況は次のやうなもので、本縣  
 をはじめ關係罹災府縣でこれが對策を  
 協議中で天谷縣會議長から臨時縣會招  
 集の要求すらあつたやうである。

△第一回 (四月二十一日)		△第三回 (五月二十二日)		△第五回 (六月十一日)	
那珂郡神崎村外三ヶ村	被害額	久慈郡二ヶ村 多賀郡一ヶ村	損害見積額	西茨城郡二ヶ村 那珂郡一ヶ村 久慈郡一ヶ村 多賀郡一ヶ村	損害見積額
反別	損害額	田 一五、一反	一、一一二圓	東茨城郡二ヶ村、筑波郡一ヶ村 那珂郡一ヶ村、眞壁郡四ヶ村 稻敷郡八ヶ村、結城郡六ヶ村 新治郡十ヶ町村、行方郡五ヶ町村	此損害見積額
四四三、七反	二五、二二六圓	畑 六二、八反	三、二九二圓	東茨城郡二ヶ村、筑波郡一ヶ村 那珂郡一ヶ村、眞壁郡四ヶ村 稻敷郡八ヶ村、結城郡六ヶ村 新治郡十ヶ町村、行方郡五ヶ町村	此損害見積額
△第二回 (五月九日)		計 七七、九反	四、四〇四圓	田 一四八、五反	一四、三〇圓
田 一二四、一反	二一、五五五圓	△第四回 (五月三十日)		畑 二四、三五反	二九、五二圓
畑 三四一、五反	二七、八八圓	計 三三五、六反	二六、四四圓	計 二七三、八反	三三、三二圓

續く惨害のドン底から

奮ひ起つた柴崎村

今に残る天明大饑饉の記録



記者

六月三日、長驅して稻敷郡柴崎村を訪ねた。龍ヶ崎から江  
 戸崎行の自動車で四五十分、狸穴の一本松——トゲくしい  
 男松の縁を古池にひたして、狸ならぬ大蛇でも出さうな三叉  
 路で下車、オーライ嬢が親切に教へてくれた通り挽材工場の  
 前を右にはいつて約二十町、匡救道路であらう坦々たる山裾  
 の改正道路を幾曲りかすると柴崎だ。この地、その昔甲斐  
 守近衛光壽の居城であつたが、天正十一年土岐治頼の攻むる  
 ところとなり甲斐利あらず、自刃して果つ、臣僚また離散し  
 て城中たゞ一つの祠を残すのみであつたが、後敗北の臣、再  
 び主城を慕うて來り住んだ、現在の宿場みたいなところがそ  
 れで、城中に残つた祠が今に傳はる愛宕神社である、常總の  
 野を一陣の間に收むる丘の上に鎮座し、四季の眺め頗るよい

かうした由緒の地だけに、住む人々の心もゆかしく、街道  
 塵一つ止めぬまでに掃き清められてあつた。  
 學校の前を曲るとスグ、駐在所と役場が並んでゐる、役場  
 は古いが、駐在所は新築早々のものらしく。勿体ないほど立  
 派だ。

刺を通じて統計主任油原眞氏を名指すと、そこにゐたガツ  
 チリした方が「油原です、どうぞこちらへ」といふ、導かれて  
 事務室裏の休養所といつたやうな日本閣へ通る、村長小倉市  
 助氏も早速來られて三人鼎座、時節柄先づ養蠶の状況から話  
 題は設けられた。

「水戸の方は桑の葉は幾何位してゐますか」  
 しまつたツ！繭の値のいゝことはその日沼津のニュースで

知つてゐるが、筆者不幸寡聞にして水戸邊の桑相場は聞いてゐなかつたのだ、尤も當時尙ほ水戸邊では桑を賣買する迄に養蠶が進んでゐなかつたのだ、僅かに水海道あたりで桑葉不足を見越してプローカが買占めをやつてるといふのを耳にしてゐたので、仕方ない、そんなところで間に合せて、さうして今度はこちらから逆襲した。

「この邊では養蠶は如何です、」

油原主任「養蠶は相當にやつてゐます、昨年の春蠶は一萬七千六百十五瓦の掃立で六萬九千七百七十六圓、夏秋蠶は一萬八千三百三十三瓦で三萬千二百八十二圓、全部で十萬圓を越えてゐます、昨年の蘭安で今年は幾分掃立も減じたやうですが、今の處では値はよささうだし、セメテ四圓位になれば大助かりで、村全体に景氣がつかます」

「田植も始めてゐるやうですが、養蠶やら田植やらゴツチャで随分農家は忙しいでせう」

主任「忙しいのは是れからです、この季節になると人間が拂底して引張り風です、それで農雇の賃金標準をきめてけふ



(眞寫) 前右から二人日統計主任油原氏、次は役平井重、村會議員、村役場員、其他氏助市倉小長村は次、氏門衛右

が、聞いたと見たでは非常な違ひで、前に述べた如く小高い丘の上にあつて明るく、人は淳朴そのものである、東西卅一

### 内に包む豊富な内容

さてこの村は「柴崎」なんてその名から草深い寒村を想はせる

これから村會にも諮つたり一般にも通知することになつてゐますが、これでは少し安いかと思はれます」

その定められた標準なるものを参考に左に掲げてみよう、

- △田植男一圓、女九十錢△東苗取一把四厘△養蠶勸(春蠶)男一圓、女九十錢(秋蠶)男八十錢、女七十錢△桑摘十文字一貫目六錢、改良種四錢△繭搔白繭一貫目七錢、黃繭同六錢△除草一日六十錢△稻刈男八十錢、女七十錢△調製男九十錢、女八十錢△畑耕男八十錢、女七十錢

町、南北二十三町、戸數七百、人口も千七百九十五人、男より女の方が二百人ばかり多い、川沿ひだけに水田最も多く全土地の約七割を占め畑は養蠶郷を如實に物語つて二百五十六町の内百五十町は桑畑である。

村長には往年縣會で鳴らした宮本熊藏氏があり、平井文衛門氏があつた、平井氏は今は故人となつたが共々村治に絶大な功勞あり、學校の庭には大きな頌德碑が建つてゐる、小倉現村長も助役平井重右衛門氏も共に濃厚篤實で、信望厚く、統計には極めて理解があり、主任油原氏の熱心とよく調和し村會議員亦よく統計の貴重なるを辨へて、統計費の如きも四百十八圓から計上し、調査員の手當は一人二十圓で米調査の方で五圓つゝ支給してゐる。

油原主任は、昭和七年四月二十九日天長節の佳辰にあたり統計功勞者として縣の表彰にあつた人。大正十三年七月から統計事務を掌り、滿十二ヶ年、身を以てその整備にあたり、調査員を督勵訓練し、時には全員を率ゐて優良町村の視察をなし、本年も久慈郡賀美村を見て更に埼玉縣精明村を視たさうだが、賀美においては多々得る處あつたが、埼玉の方は案外幼稚で却つてお手並を見せてやりたい位だつたと調査員諸君鼻高々である。

左に調査員諸君の氏名を紹介するが、何れも村の中堅人物で多くは區長を兼ねてゐる。

△大字柴崎松浦永藏(五)、柳町靜一(五)、内藤勇次(三)松浦康(四)、逸村考之助(五)△大字伊崎 日尾野藤吉(五)△大字角崎大竹文治(五)△大字中山 大貫熊次郎(三)、助川宇三郎(五)△大字伊佐津 池田忠藏(四)、宮本文助(五)尙ほ油原主任は統計思想普及の一策とし、又調査員諸君の努力を周知せしむる一方法ともして「今年米がどれだけとれたか」とか「麥の状況」とか「春蠶の結果」とかを「柴崎村統計速報」とし謄寫版刷りにして村民にその都度速報してゐる、寔に思ひつきの方法といふべく左に九年度米作に關する速報を轉載してみよう。

### 柴崎村統計速報 (稻數郡柴崎村)

○今年米がどれだけ穫れたか！  
昭和九年に於ける米の作付反別は六百三十八町五反歩にして其の收穫高は一萬一千七百七十三石なり之を前年に比すれば五百四十三石の減收を見たり水稻稈に於ける反當り收量は一石七斗六升にして水稻糯に於ける反當り收量は一石六斗二升三合なり

前記收穫高を價額に換算すれば三十一萬三千二百三十九圓(粳は石二十八圓、糯は石二十八圓五十錢の割)の巨額に達し米作農家(五三八戸)一戸平均額五百八十二圓二十三錢也今右收穫高を調査區別に掲ぐれば左の如し(表略す)

### 丹念な大工さんの日記

この地、往昔、利根川に堤防らしい堤防もなく、一たび氾濫するや濁流思ふがまゝに荒れて、田も畑も家もなんにも持ち去られる、多年この荒類に懲りて岡へ、岡へと出て来て今日の柴崎村を成したものと口碑に傳はるが、天明年間淺間山の大爆發には甚大なる損害を被り、五穀殆んど實らず、草根木皮も喰ひつくして垣根を結んだ繩のイボを黄粉の代用にし、松の皮を餅に搗き交せて命を撃いたといふ慘状を呈した。こゝに丹念な大工さんがあつて饑饉の有様を日記に認めておいた、某所にその一部分が残つてゐる。

或る大工の日記

天明三年七月六日朝、この時砂降る、六日、七日は晝夜、空赤くして砂降ること一時も止まず、八日は夜も晝も知れずして燈は消す間もなく皆々こねて居り申候(ごねるは衆人の臥する俚言)

天明三年秋冬の相場

玄米百に一升、稗はカラ稗二升五合、大豆一升五合、大麥一升二合、小豆九合、綿十八匁  
ひきへ田(低田)は大水にて無し、畑は砂にて大豆小豆稗なし、それより高い處の田は大風度々吹き、皆そつ立にて

實なし(そつ立は空立)

十一月二十七日の晩よりほうき星出る、十二月七日大地震  
この年の流行歌ノンノ節(その一部)

一つとや ひとり事ではないけれど、田畑見れば皆涙 ノンノ

七つとや なんてくらさう來春は六合相場が氣にかゝる ノンノ

八つとや 病で死ぬは是非がない、食はずに死ぬるは無念 ノンノ

やな

天明四年春玄米百に八合、白米六合、大豆一升、稗二升、米ぬか六升、麥七合、稗のあらぬか八升、菜は正月の頃より畑にて賣致候

草根木實皆食ひつくして、垣根のいほを、こうせんとし松の皮を餅に搗き交せて食ひたり、又米ぬかを食ひたり

天明四年漸く豊年、玄米百に二升二合、大麥二升五合

### 白日愛兒の顔を見ぬ

り働いた。天は昭々として正しきものを照す、努力は遂に報わられて、風水害も除かれ、交通も發達し、今日の立派な模範村は築きあげられたのである。

辭して村はつれに出ると、盛んに田を植ゑられてゐる、十三四の女子が二三人、自轉車へお辨當を積んで、野の父へ、母へ、姉兄へ、急ぐのを見た。

### 市町村

(表名)	(報告期限)
綿織物産額調(特定町村)	三日
絹織物及絹綿交織物産額調(同)	五日
人口動態調査票	五日
園藝農産物果實ノ二	十五日
水稻作況	十八日
製 藍	末日
學事年報乙款及諸表	末日
綿織物産額調(特定町村)	三日
絹織物及絹綿交織物産額調(同)	五日
人口動態調査票	五日
夏秋蠶豫想掃立數量	十五日
園藝農産物蔬菜花卉ノ一	十五日
米第一回豫想收穫高	廿三日

### 統計調査員

(表名)	(報告期限)
園藝農産物果實ノ三	末日
製 茶	末日
夏秋蠶豫想收穫高	末日
果實中	末日
ネーブルオレンジ、ナツミカン其ノ他ノ柑橘類	三日
同 ウメ、モモ、オウトウ、ビワ	十日
夏秋蠶豫想掃立數量	十日
夏季調査作物	十日
水稻、陸稻の反別	十日
夏秋蠶豫想收穫高	廿五日

### 事行計統



# 納税完納三十年

## 懐る豊かな佐野村

### 名物は麦と西瓜とサツマイモ

統計模範村

麦の村、西瓜の村、甘藷の村、政争のない村、三十年來、納税完納の村——さうして佐野は統計模範の村として有名だ水戸から僅に十數分、二ツ目の佐和停車場のある處がその模範村だのに、餘り近いのでツイうっかりしてゐるが、今度何年ぶりかでこの地を訪ねて先づビックリした。車窓から見た寒素な驛前の光景とはまるで異つた華やかな一廓をそこに見出したからである。

賣出しの旗、念入りに店飾りした理髮屋さん、そしてその間に点綴される何軒かのカフェー、近代の様式を施した青い幕の影に噪やく斷髪の女、洋装の女——何時の頃から佐野はこのやうな時代の浪に乗つたのだらう。

#### ◆……ロジツクに合はぬ村

農村といへば「荒み行く」と來なければロジツクが合はない

の向うへ行かうものなら大したものですよ」

記者「どうしてコンなに發展したんですかね、村民の懐ろが豊かなんでせうか」

主任「それもありませんが、大きい商人が出來たりしましたからね」

記者「大きい商人？かういふ處に一郷の盛衰を左右するやうな商人なんて何を商つてゐるんです」

村長「砂押忠八といふ肥料商です、三十年ばかり前は全く無資産でしたが、日露戦争時代にさゝやかな肥料商を営んだのが當つて今日では一ケ年の賣上三百萬圓と稱し、恐らく縣下でも指折りの肥料商でせう、營業收益税は太田稅務署管内で第一の納税者ですこの人は何をやつても失敗がないといふのだから運ですな」



（眞寫）前右より入り役植田景三、中中央村長、清水廣介之左、端統主計根本富男其氏他役場員

程、到る處荒み切つてる筈の農村なのに、獨り佐野のみは時代の勢ひに乗つてこの歩みだ。不可解な謎を秘めて役場を訪ると村長さんも統計主任も、小麦の作柄等位決定に畑へ出てゐるといふ。もつげの倅ひだ、教へられたまゝに麥隴の間に出ると、黄ばんだ麥畑の中にカン／＼帽をいたゝいて村長さんと主任さんが、とみかうみ盛んにやつてゐるではないか、挨拶もそこ／＼、この精勤ぶりをカメラに収め、道すがら實物教授を受けながら役場に引あけて、先づ謎を解きにかゝつた。

記者「近頃佐野の發展は素晴らしいものですな」

村長「ハア、なか／＼やつてますよ」

記者「失禮だが、こんな處にカフェーなどあらうとは思ひませんでしたね」

主任「あんなものぢやありませんよ、あれから先き、線路

主任「肥料の動きは村の動きで砂押氏は朝、戸をあけると村への附合ひやら税金やらを一日十五圓宛ときめてお下さうです、さういふ大商人ですから毎日多數の人が出入する。その人達が飯を食ふ、物を買ふ、村では税金がウムとはいる、寄附事は大部分一人で引受けてくれるそんな關係で、肥料が動くと之につれて村が賑つていくのです」

これで佐野村發展の理由がわかつた、謎は解けた。

#### ◆……副業をやらぬ村

しかして村民は淳朴敦厚、營々として古來傳統の家業に勵み副業といふものを殆んどやらない、之も懐ろ豊かな證據で、納税成績は東京稅務監督局管内で第一位を占め、納税完納三十年

全國にも稀なる村として推稱されてゐる。  
東西一里十四町、南北一里十九町、戸數八百七十一、現住人口四千五百二十九人である、その内自作農が二百四十五戸、自

作兼小作が三百三十七戸、純然たる小作農者は百七十一戸しかない。主なる産物は小麦で作付反別四百二十七町、次は陸稻(糯)で二百四十九町四反、水粳は二十町五反、大麦百一町三反、その他陸稻粳、裸麥等で米麥以外では甘藷、大豆、西瓜、菜種などが重なる産物になつてゐる、わけても小麦は縣内は勿論、全國でも屈指な生産地で、全國八百萬石の千分の一、即ち九年度には八千石を收穫した。見渡す限り一面の麥畑、その合作が西瓜と甘藷、役場なども三方麥に圍まれてゐる、實に麥の村であり、西瓜の村であり、サツマイモの村である、米葉の適地として近頃は葉煙草も盛んになりつゝある。そして西瓜は多く福島縣下に輸出され、サツマイモは東北に、小麦は全購聯、砂押肥料店及び製粉會社と取引されてゐる。

◆……調査員と學校の連絡

現村長清水廣之介氏は大正九年以來役場に勤務し、收入役、助役を経て村長になられた地方自治の通人で、村民の信頼厚く統計主任根本富男氏亦既に八年も勤続し、村長を補佐して、ひたすら村勢の發展に努め、統計事務に當つては、その明快俊敏なる全腦を打ち込んで完璧を期し、聊かも倦むところなく、常に第一線に立つて調査員を督勵し、調査方法の如きも共に研究して最善の方策をのみ出すことにつとめる調査員もよくその氣持ちを呑み込んで之れはかうしたらどう

か、之れはかうするがよからうなど研究的態度で調査にかゝるから、自然趣味が湧いてくる、調査は徹底される。斯くて村當局と主任者と調査員とがガツチリ組み合つて一つ心で統計をもち立て、行くから益々よくなるばかりだ。  
一面また學校と聯絡をとり、養鶏調査の如きは悉く兒童にまかせ、兒童が調べて來たのを受持の先生に計算して貰う、お手傳の兒童にはその都度一人十錢程度の雜記帳と鉛筆を贈る、これを調査法改正後連續行つて優秀なる事蹟をあげ、昭和七年四月二十九日天長の佳節に縣表彰の榮譽を荷はれた、然らば調査員の方はどうか。

佐野村の現調査員は

- |    |      |    |      |
|----|------|----|------|
| 高橋 | 淨君   | 平野 | 廣之介君 |
| 大塚 | 英君   | 武弓 | 大介君  |
| 飛田 | 丑五郎君 | 照沼 | 初太郎君 |
| 武弓 | 定之介君 | 田中 | 廣之介君 |
| 稲田 | 龜吉君  | 清水 | 鐵藏君  |
| 内山 | 寅松君  | 鈴木 | 春之介君 |
| 川崎 | 修君   | 川崎 | 信君   |
| 清水 | 啓君   | 清水 | 吉太郎君 |
- の十六名で、平野、武弓(定)、田中、内山、川崎(信)の五氏をのぞく他の十一名は何れも大正十年以來の勤続著だ。成るべく馴れた人を替へないのがこの村の方針で若し己むを得

ざる事情で、どうしても辭めたいといふやうな場合には、一ヶ年位前に後任者を自ら物色して之にみつちり指導訓練を興へてから辭めさせることにしてある、急に辭意を申出るが如きことがあつても受理しない、そのかはり常に報ゆるに相當の手當を以てし、現に統計調査費として四百八十圓の豫算をおき、調査員手當一年僅かに五圓であつたのを昭和四年から一躍二十圓に引きあげ、更に精神的優遇の方法についても考へてゐる。

◆……一般事務にも優秀

聞くところによれば昭和三年統計調査法改正の當時においては、根本主任等も反對側一方の旗頭で騒いたものだが、何

としてもやらねばならぬ事になると猛然奮ひ起つて村當局を説き、先づ三百圓の豫算を貰つて圖面も作る、臺帳も作る、そして之を調査員にやらせようとすると今度は「こんな七面倒な仕事が出来るものか」とヒヂ鐵砲を喰はされる有様それをやう／＼に説得してやらせる、やつてみるとほんとの數字が現はれてくるから段々趣味も加る、こゝぞと前記の如く倦まずたゆまず訓練し督勵して遂に今日の優秀なる成績を収め、範を縣下に垂れるにいたつたもので、本年更に經濟更生指定村に加へられ當に統計ばかりでない、一般事務の優良を誇るの段階を昇りつゝあるのだ。記者は洋々たる佐野の前途を祝福して一段の努力を希ひ此の稿を終ることとする。

メートル換算法

尺貫をメートル法に換算する便法を記してみる、  
勿論便法ですから少しつゝの誤差はありますから  
そのおつもりで  
鯨尺を米にするには 五割加へて四で割る  
米を鯨尺に 八倍して三で割る  
里をキロ米に 三割加へて三倍する  
キロ米を里に 二割加へて四で割る

キロ米を哩に 五倍して八で割る  
平方米を坪に 一割引いて三で割る  
キロを貫に 二割引いて三で割る  
貫をキロに 四で割つて十五倍する  
斤をキロに 五で割つて三倍する  
升をリットルに 九倍して五で割る



### 實務道場

## 統計調査の葉 [4]

☆……統計が進歩し統計が利用されることに

☆……よつてはじめて完全なる國策は生れる

いよく收穫の秋だ……

修練の腕を見せるは此時！

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

あつしともいはれざりけりにかへる  
水田に立てるしづを思へば  
畏くも明治大帝には、極暑、煮えかへるばかりの水田に立ち、田の草をとる農夫の夏を、思召されて民草の戒めとされた。

その夏こそ、躍進日本の象徴とも稱すべき農民唯一の壇上ではないか、次に來るものはこの貴い汗の結晶から成るといふ收穫の秋だ、萬頃一颯、農民のみが占有する爽涼の秋だ。そして調査員諸君が、日頃修練の腕前を天下に誇る絶好無

二の秋である。  
曾て縣會に問題視されたのも、この秋の調査であつた、秋の調べの如何に重要であるかは、この一事に徴しても明かである。

諸君は、諸君の任務の重大緊切なるに鑑み、一層調査の正確を期し、統計の完璧を天下に示されるやう努められたい。

### 秋季調査と調査員の注意

#### 一、耕地圖及作付反別調査原簿の加除整理

耕地圖及作付反別調査原簿は、常に耕地の現状と對照し、合致せしめて置くことは、何時の季節にも必要のことである。既に調査員諸君は御承知のことである。併し作付反別調査の總てがこれを基礎とするものであるから、駄足ながら特に注意する次第であります。

#### 二、秋季作付反別調査

秋季作付反別調査は調査員として四季を通じての最も困難な季節で、即ち米生産統計調査方法實施の結果之に依る調査方法と、縣に於て制定の調査方法の併用に依り、米と他の作物との二つに調査せられ、手續上に於ても複雑となりましたから左の順序に依り處理することが便宜であります。

一般農作物及陸稻にあつては作付反別調査票(畑)秋季の欄に記載して所定の通りに調査し、之が作付反別を集計して集計表を作成するのであります。

陸稻は右に依り調査のみして集計せず。後の米生産統計調査方法に依り處理するもので、陸稻の場合には作人を記載して置く必要があります。

#### 三、米生産統計調査

##### (1) 作付反別調査

米生産統計調査員は、米の調査に先だち別項記載の米作農家の調査を行ひ米作農家一覽を作成せねばなりません。米作農家一覽とは自調査区内に住居を有し、自調査区内に米作地を有するものを第一に記載し、次に自調査区内に住居を有し、他調査区に米作地を有するものを記入し、更に他調査区に住居を有し、自調査区内に米作地を有するものを記入するのであります。併し實際の米作農家は右の一覽より他調査区に住居を有するものを差引き、自調査区内に住居を有し、他町村のみ米作地を有するものを加へたものであります。すから、之が報告の際には特に注意を要するのであります。

一年毎の作付反別調査は陸稻にありましては前述の通りであります。此の場合には耕地圖と對照するか又は耕地圖に所定の貼紙を用ゐて一筆毎に必要事項を記入するか、特に米作地圖に依りて調査をなすか、孰れか適當の一つを選びて調査をなせば農林省の趣旨にも縣の規定にも反しない事になります。

水稻の調査に在りても前同様の方法に依り調査するのであります。水稻は田の殆んど全部に作付するのでから耕地圖と作付反別調査原簿と對照して合致せしめ作付反別調査原簿の欄外(上部)に貼紙をなし、其の上欄に梗米糯米別に上、中、下の作柄を記載して行くと反別、作人は原簿に記載してあるからこれで一筆毎の調査を完成したことになります。

これが終ると水陸稻共是れを作人別に作成の補助表に記載して各梗米、糯米を上、中、下の作柄毎に記入し、是



を集計して米生産統計調査基準票に  
記すのです、但し補助表、基準票と  
も他町村より来て作付して居るものは  
作人毎とせず入作として一つに纏めて  
宜しいのです、

(2) 一段歩收穫高の決定

愈々結實して刈取期に入らば、坪刈  
標準地を選んで坪刈を行ふのですが、  
坪刈は上中下の三段に別けて之を行ふ  
必要があります、その上中下三段の標  
準を決定する場合には、その三段階級  
の中庸を選ぶべきであります、單に  
中庸のみでは實際より多い收穫となる  
虞がありますからいや實際より多いと  
云ふ結果を生ずるから、中庸の稍々下  
位を選ぶのが最も必要です、執れにし  
ても慎重の取扱をして決定してもらひ  
たい、そして右の結果と其の年の實際  
の状況とを參照して一段歩收穫高を決  
定するのであります。

(3) 基準票算出收穫高の記入

家の意見等を參照して特に慎重に決定  
して記入するやうにしたい  
斯くして調査を完了し右の調査票の  
作付反別及審査收穫高を合計して調査  
區結果表を作成し更に市町村報告書  
を作成するのですが、檢算を厳にし誤算な  
きを期してもらひたい

以上は大体的處理順序でありまして  
尙詳細は米生産統計調査方法に依り處  
理することは勿論であります

四、本期に於ける作物の

種類及調査期間、報

告期限

本期の作物種類及調査期間、報告期  
限は左の通りです

ア	自九月	報告期限	十一月十日
ヒ	エ	至十月	
キ	モ	ロ	コ
シ	ソ	ジャ	ガイ
バ	根	秋	播
ナ	大	カ	ツ
ケ	ニ	ン	ジ
ラ	自九月	報告期限	十一月十日
至十月			

右の一段歩收穫高が決定すれば各基  
準票の作付反別に是を乗し基準票算出  
收穫高を記入するのです

(4) 基準票の送付並受領

此の場合基準票は他調査區より自調  
査區へ来て作付して居る者の分は自調  
査區で所持して居るから右の算出記入  
を爲した後其の農家の住所地たる調査  
員に基準票を送付するのですが、その  
反對に自調査區に住する農家が他の調  
査區で米作を爲す場合その基準票を受  
領せねばなりません

此の送付並受領は各自が直接之を爲  
すときは非常に煩はしいから、市町村  
役場で日を指定しその日に持寄りお互  
に渡しあふことにしたいのです

尙此の場合各調査員は本誌第二號  
(三月號)四五頁に掲載の米生産統計調  
査作付反別出入明細表を作成して段別  
の一致を圖り不都合無き様處理して  
もらひたいのであります

(5) 米生産統計調査票の作成

ゴ  
ボウ  
ネ  
ギ  
レン  
コン  
ク  
ワイ

果  
日本梨  
西洋梨  
ブドウ

十月末日

尙米の生産調査にありては其の調査並  
處理の順序に依り記載すれば左の通り  
であります

米作農家一覽	調査期	報告期
八月下旬	九月十日	
作付反別調査	九月上旬	九月十日
基準票の作成	十月上旬迄	
調査票の作成	十一月中旬迄	
結果表の作成	十一月中旬迄	十一月 中旬迄

口園藝農産物果實ノ二

(市町村報告期八月十五日限)

本表は農産物調査方法に依り調査員  
實地調査の上提出したる集計表に依り  
調製するものであります

樹数は結實の樹齡に達したもので  
收穫皆無のものと雖總て調査致します

以上の總ての手續が終へたならば今  
度は米生産統計調査票の作成にかゝる  
のですがこれは農家毎の基準票の作付  
反別を合計して調査票の作付反別欄に  
記載するのです

收穫高欄は各農家に就き上欄の作付  
反別に對する收穫高を記入せしむるか  
又は聽取の上調査員に於て記入するか  
の方法に依り調査記入するのですが、  
此の場合その農家が他町村に米作を爲  
して居たときは自町村内のみの收穫を  
調査記入するのであるけれども若し他  
町村に作付なく全部自町村内にのみ作  
付して居る場合には全部の收穫高を調  
査記入すれば宜いのです、此の欄は前  
年も大分記入洩れのがあつた様です  
から今年は特に注意してもらひたい

次に收穫高審査欄は農家に記入又は  
農家より聽取した收穫高と基準票の算  
出收穫高の合計と對照し決定するの  
ですが、此れが決定を誤ると實に意外な  
る收穫高となることがあるから、精農

其の他の柑橘類にはレモン、橙、柚、  
金柑、ブッシュユカン等總てを含みミカ  
ンは含まないのであるから注意せられ  
たい

口水稻作況

(市町村報告期  
八月十八日限)

本表は八月十五日現在に依り調査の  
上八月十八日迄に縣へ報告するのであ  
ります。

この調査で作況と云ふのは作付段別  
の増減に何等關係なく單に作柄の良否  
を指すのでありますから水稻の生育狀  
況を實際に巡視して左の五つの標準に  
依つて何れかその一つを表示して報告  
するのであります

「普通作況」とは前五ヶ年間に於け  
る中庸の作柄を、「稍良」とは普通作況  
に比し増收五分以内の見込の場合を、  
「良」とは普通作況に比し増收五分を  
超ゆる見込の場合を、「稍不良」とは普通  
作況に比し減收五分以内の見込の場合  
を、「不良」とは普通作況に比し減收五

分を越ゆる見込の場合を謂ふのであります

この報告は極めて迅速を要しますから若し八月十八日までに報告書到達せざる見込の町村は電信又は電話を以て報告する様御手配を願ひます。

### □夏秋蠶繭豫想掃立數量

(市町村報告期九月五日限)

本表は九月一日現在で区内各飼育者に就き調査し養蠶調査方法に依つて作成する夏秋蠶調査原簿を基礎として豫想掃立數量を作製するのです、五月號實務道場にも載せてありますからこれを参照せられ誤りのない様に願ひます。

### □園藝農産物蔬菜及

#### 花卉の一

(市町村報告期九月十五日限)

本表はエンドウ、ソラマメのみについて農産物調査方法に依り調査員が實地調査の上提出したる調査集計表に依

り調製するもので成熟したる時の數量について調査することになつて居ります併し實際は未成熟のまま食用に供せられるものが多いがその場合には成熟したるときの數量に換算して算出計上することになつて居ります

今参考として生の量を成熟した時の石數に換算する割合を示すと大体左記の通りになります

生一貫に付(エンドウ八合乃至 九合  
ソラマメ一升内外)

### □米第一回豫想收穫高

(市町村報告期九月二十三日限)

本調査は九月二十日現在に依り調査の上本表作成九月二十三日迄に本廳へ書類到達する様急速報告せねばなりませんから特に報告期限を厳守して下さい

本表の作付反別は調査員が豫め八月中に縣細則(米生産統計調査方法)の調査方法により耕地一筆毎に實地調査した段別を集計して作付反別欄に計上す

るのであります

豫想收穫高は受持調査区内に於ける作柄状況を巡回調査し且つ精農家數名の意見を徴して水稻及陸稻に付粳米糯米別に早中晩毎に上中下の階級に別ちて各一反歩當の豫想收穫高を決定して夫々該當の段別に乘じ其の市町村の豫想收穫高を算出するのであります但し無收穫見込反別があれば之を控除せねばなりません

前年收穫高は前年の實收高を計上すべきものですから誤つて前年豫想收穫高を計上せぬ様注意を要します

備考欄には前年に對する増減の事由は勿論所定の事項殊に天候の變化病虫害の有無災害等は最も重要な事柄でありますから具体的に説明する様願ひます。

### □米作農家戸數調

(市町村報告期九月二十三日限)

米作農家戸數は九月二十日現在を以て調査の上即ち米第一回豫想收穫高

表と同時に九月二十三日限報告するの

でありましたが前年の例に徴すると誤調等が有りまして照復を累ね事務の進歩を阻害するものあるは遺憾とする所であり、米生産統計調査は各經營農家毎に調査する規程上から見ても本調査は其の基本を爲すものでありますから今年度こそは最も適確なる調査を遂げられる様致したいのであります尙左に特に注意すべき事柄を掲げて参考に供します。

(一) 本年度からは米作農家數と米作準農家數とを調査すればよろしい事に今回農林省で改正しましたので縣に於ても六月二十四日附統收第八一號例規通牒を以て各市町村長宛に通牒して置きましたから誤りのない様調査して頂きます

(二) 米作農家と米作準農家との區別は農林省統計報告規則取扱細則の米生産統計調査取扱方第四の(二)項後段に明示されてありますから此の區分を誤ら

ぬ様御注意を願ひます

(三) 米作農家及米作準農家は其の經營する耕地所在の如何に關せず總て世帯若しくは事務所の在る市町村にて調査計上すべきものです

(四) 米作農家を計上するに當りまして米作農家一覽を其の儘利用する事のない様にせられたい即ち米作農家一覽へは他調査區より來りて耕作する者迄掲げてありますので其の農家戸數を重複計上する様な虞れがあります故必ず實地に就いて調査せらるゝ様に注意を願ひ度いのです

(五) 前年に對する増減事由及米作準農家の名稱は必ず備考へ記入して頂きたいのです(前年とは昭和九年九月二十日現在調査に依るものを云ふ)

### □夏秋蠶繭豫想收穫高

(市町村報告期九月末日限)

本表は九月二十五日現在に依り受持区内の各飼育者毎戸に就いて實際の状況を調査し尙營業者の意見をも徴して其の区内に於ける蠶種一瓦當の豫想收

滿量を決定し之に掃立數量を乘じて豫想收穫高を算出するのですが若し無收穫見込數量ある場合には其れを除外した掃立數量に乘じて算出するので、前年收穫高欄へは前年夏秋蠶表に記載した、實收穫高(上繭、玉繭、屑繭を合計した總收穫高)を計上するのであつて前年の豫想收穫高を計上せぬよう注意を願ひます備考欄には前年收穫高に對する増減事由の外に氣候の適否、飼育の経過及桑葉の過不足並に發育の状況等も必ず記載されたいのです。

### □園藝農産物果實ノ三

(市町村報告期九月末日限)

園藝農産物果實ノ三(ウメ、モモ、オウトウ、ビワ)は農林統計報告規則取扱細則の夏季調査に屬するもので果樹園の部と果樹園以外の部とに分けて調査するので果樹園の調査は果樹園毎に調査し果樹園以外の部は各作人別に調査するのであります又樹數に就ては收穫の目的を以て栽培をなしたもののみを調査する規定なるも自然生のもの



雖も收穫の目的を以て手入其他の栽培行為を施し收穫を目的とするに至れるものは調査するのであります但し未だ結實の樹齡に達しないものは調査を要しないが、其の他は收穫期に現存する限り假令其の年結實せざりし場合と雖も凡て樹數に計入すべきものであります、收穫高は梅は枳(何升何合)にて其の他は目方(何貫何百匁)にて調査し且一本當收穫高及單價は其の年に依り多

ゴハンを腐らせぬ方法

綠蔭の一面、清流の一泳も夏の景物なら、物の腐敗もまた結構ならざる夏の一景物だ、わけても御飯の始末には、どこか家庭でも難儀するやうだが、そのゴハンを腐らせぬやうにするにはどうしたらいいか、御家庭の方々に御参考迄に、左に方法を摘記して見よう。

- (1) 米をよくとぐ事、そしてよく煮る事
- (2) おヒツを乾かして充分に温め、それに御飯をうつし、その上に乾いた布巾をかぶせてフタをする、

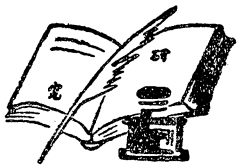
少の相違はあるも前年に對し著しく相違の場合は備考に詳細説明を附されたい尙梅は各町村共殆んど栽培しあるに付調査洩れの無い様にせられたいのであります

尙調査小票は必ず整理し統計事務監査の際持参するのであります。

製茶

(市町村報告期九月末日限)  
製造戸數は其の季節に於て製茶に従

- 暫くして布巾を取りかへ、内側の水氣をふきとつておく、中頃に梅干一個を入れるのもよろしい、そして風通しのよい處へおく事
- (3) 御飯を炊く時に釜の中へ梅酢を少し落して炊くと眞夏でも三十時間以内何ともない
  - (4) 新しいおヒツを使用する時は酢で内側をふくがよい、さうすると御飯の腐りも遅いし、木の香もしない
  - (5) 御飯を炊く時の水は、汲み立てのものは早く腐敗するから汲みおきの水がよい



統計相談所

統計に關し疑問なり又は不明な点がありましたら  
御問合せ下さい  
誌上にて丁寧にお答へ致します

作付反別調査原簿

(問) 同一人が接續したる數筆の土地を耕作し、而も筆と筆との區劃全く不明瞭の場合は便宜作付反別調査原簿を右各筆を合併して置くも差支ないでせうか

農業保險基礎資料に依る 農産物被害表

(問) 左記の如き被害を蒙りたるときの損害價額算出方法詳細伺ひたし  
一、大麥刈取二十日前電害に依り收穫皆無となりたるときの損害價格

(答) 損害見積價額は被害當時の作柄に依る見積一反歩收穫高を被害當時の時價に乘し算出するのです

林野産物表

(問) 桑園整理の爲桑樹の根株を採掘り木炭を生産しつゝあり、右木炭も林野産物として調査し備考に畑桑樹炭何貫目生産としていゝのでせうか

(答) 御見解の通り林野産物として一般林野産物中に計入し尙備考に其の旨記載せられたい

養蠶表

事したる戸數を記載するのでありますから記載洩れない様にせられたい

製茶は玉露煎茶紅茶其の他の茶に區別せられ各其の製法に依り夫々區別記載するのであります前年の報告に徴すると粉茶を其の他の茶欄に記載しあるも其他の茶欄には正茶、磚茶、烏龍茶、碁石茶等を記載すべきものであつて粉茶は各其の本茶に合算記載すべきものでありますから注意せられたい

(問) 養蠶表に關する統計に就ては從來調査員各養蠶家に就き小票に依り調査しつゝありましたが養蠶實行組合を設立しある町村にありては該組合長より統計報告を徴すれば最も正確なる數量を求むることを得るにより調査員各戸に就ての小票調査を省略し組合長より報告を求め統計表を作製して宜しいでせうか

(答) 從來通り各戸に就き小票を以て調査し更に養蠶實行組合長に就き誤なきや否やを照會することにせられたい

臨時國勢調査部

部長以下調査係任命

本年十月一日實施せらるべき國勢調査事務につき、本縣では去る五月十一日本縣訓令甲第二十二號を以て規程が公布され、同時に臨時國勢調査部が設けられ、部長には總務部長、副部長には統計課長が就任された尙五月十七日付を以て課員全部と文書課員三名が部員を命ぜられた。

# 興味の懸賞募集

## 國勢調査による ……本縣の人口は？

第四回目の國勢調査は今秋十月一日を以て行はれ、昭和五年の國勢調査後における我國の人口及び人口の構成が如何なる推移を辿つてゐるか、我が國勢が如何なる動向を示しつゝあるかと、この調査によつて明確にされる譯であります。

殊に今回の國勢調査は、方今の國狀に鑑みましても、極めて重要な意義を有するものでありますから、一層心して國家的大業の完成に努力せねばなりません、然らば我が茨城縣では既往五ヶ年間に如何なる變遷を來たしたでありませうか、人口はどれ位殖えたか、又減つたか、國狀の推移變遷と共に、縣民全體が關心を持つところの頗る興味ある問題とされてゐます。

即ち昭和五年の國勢調査によつて調べあはれた本縣の人口は百四十八萬七千九百七十七人でありました。之を大正十四年十月に行はれた國勢調査に比べますと七萬八千五百五人の増加となつてゐます。しかして昭和九年十月一日現在を以て各市町村において調査しました本縣の

現住人口は百五十七萬二千八百二人

となつてゐますが、今度の國勢調査で、どう變化するか、之は十月一日午前零時の調査の結果によらねば神様でも判らないのです、之を左記規定に依つて廣く皆さんと共に豫想したいと思ひます、「はがき」一枚で済むことです、奮つて應募されたい。

### 應募規定

- 一、問題 昭和十年十月一日の國勢調査に依る茨城縣の人口
- 二、應募 一人一枚
- 三、期限 昭和十年九月三十日限り
- 四、用紙 「郵便はがき」にて住所氏名を明記すること
- 五、宛名 茨城縣廳内茨城縣統計協會
- 六、賞 一等 拾圓 一人  
二等 五圓 二人  
三等 參圓 三人  
等外 十人
- 一、審査 (1) 審査長は統計課長とし、同課員を審査員とする  
(2) 審査の結果適中者多數あるときは抽籤により當選者を定む若し適中者なき場合は最も近きものより順次當選者を定め是亦同數者ある時は抽籤による但し差數二千を越ゆる時は入選せしめざることあるべし
- 一、決定人口 内閣統計局の結果速報人口に依る
- 一、發表 茨城統計誌上に於て發表す

# 本縣の宣傳スポタ

## 國勢調査



昭和十年

十月一日

調査洩れ十年間は亡者なり  
昨日來て明日行く人も數に入れ

自己を偽るは國家を偽る  
上手に書くより正直に書け

昭和十年國勢調査は十月一日午前零時の現在に依り帝國版圖内に現在する者に付左の事項を調査するのであります

- 一、氏名
- 二、男女の別
- 三、出生の年月日
- 四、配偶の關係
- 五、常住地

## 重要性を持つ

### 今回の國勢調査

#### 一 調査の趣旨

國勢調査は、人口に關する諸般の事情を實地に調査し、社會組織や、國民生活の實況を審かにして、政治財政、經濟、其の他各般の施設や、計畫の基礎資料を得るのが目的であります。近代の如く、國家の組織が複雑となり、國民經濟が顯著なる發展を遂ぐるに於ては、是等の制度や、機構を整備し、統制し、行政の施設でも、産業の經營でも、出来るだけ無駄や、重複を省き、眞に時勢に適應した改善進歩を圖ることが大切でありまして、それには、先づ國勢調査を行つて、國勢の基本を知らなければならぬのであります。昭和五年國勢調査後に於ける人口現象は、經濟、社會事情の著しき變化に伴ひ、相當推移變遷を來たして居ります。それ故に、本年も亦國勢調査を行ひ、現下の人口の實狀を明かにし、更に是れを前三回の調査と比較検討して、我國勢の動向を的確に知悉することが急務であります。惟ふに、今回の國勢調査は、方今の國狀に鑑みるも、従前の調査以上に重要な意義を有するものであります。

#### 二 調査の事項

今回行はるゝ國勢調査は、本年十月一日午前零時の現在に依り、内外人の別なく、(一)氏名、(二)男女の別、(三)出生の年月日、(四)配偶の關係、(五)常住地を實地に就いて、正確に調べるのであります。

右の事項は、國勢の基本を知る上に最も必要なものでありまして、其の一つ一つに就いて見ましても、非常に大切なものであることが判ります。即ち

(一)氏名を調べると、調査が正確になるばかりでなく、國家、社會成立の基本になつて居る人口の總數や各地方集團分布の狀況などを知ることが出来ます。

(二)男女の別を調べると、人類社會の二大部門であつて、道徳、風教に至大の關係がある男女の釣合を知ることが出来ます。

(三)出生の年月日を調べると、國民の活動力や、生産力の尺度である年齢別に依る人口の構成を明かにすることが出来ます。

(四)配偶の關係を調べると、國民増殖の本源であり、又社會が健全であるか否かを察知する標準である緣事上の状態を知ることが出来ます。

(五)常住地を調べると、現在人口の外に、行政上の施設、計畫等に必要な資料である常住人口も明かとなり、兩種人口の相違を知ることが出来ます。

以上の事項を互に關聯させて見ると、尙幾多の重要な事實が明かとなり、所謂國勢の基本が明瞭になるのであります。随つて、中央及地方の行政はいふまでもなく、各般の社會施設や、諸種の産業經營や、軍事計畫などには、なくてはならない基本資料を供給するのであります。

#### 三 調査の時期

國勢調査は、十月一日午前零時(九月三十日から十月一日に移る夜半)現在の狀況に依り、世帯に居る人々に就いて、前に述べた五つの事項を明かにするのでありますから、世帯主は、一々正確に調べて、それを國勢調査申告書用紙に認め、國勢調査員の來るのを待つて、提出せられたいのであります。調査の時刻は夜半であります。決して調査員が深夜各世帯へ調べに行くのではありません。此の調査は、社會の實狀を寫し取ることが趣意でありますから、世帯の人々は、調査の時刻に成るべく平常の狀態を變更しない様に注意せられ、世帯主は、誤りなく記入して申告せらるゝ様に心掛けられたいのであります。



### 四 調査の方法

内閣から任命せられた國勢調査員は、九月二十一日から受持區内の準備調査に着手して、遅くも同月三十日までは、各世帯主に、國勢調査申告書用紙を配付致します。各世帯主は、十月一日午前八時までに、右の用紙に、十月一日午前零時現在の状況に依つて、自分の世帯に居る人々に就いて、調査事項を正確に調べて、有りの儘を記入し、調査員の來るのを待つて、申告書として提出するのであります。若し調査員から何か問はれたときには、正直に答へられたいのであります。

### 五 國民の協力

國勢調査の事業は、調査員、其の他の係員が如何に周到な注意を以て之に當りましても、それだけでは十分ではありません。全國民の一致協力があつて、始めて完全に調査の目的を達成することが出来るのであります。殊に今回の調査事項は、至極簡單で、而も平易であるからといつて、此の大切な國勢調査の實行を軽く視ることのない様にして戴きたいのであります。又調査の事項は、何れも誰の前でいつても差支のない事柄であるのみならず、申告せられた事柄を公表したり、他に漏らしたりすることは、嚴重に禁ぜられて居りますから、思ひ違ひをして、申告を嫌つたりすることのない様にして戴きたいのであります。正直に、正確に申告せられたことが集つて、最も大切なものになりますのでありますから、國の爲、地方の爲、誠に緊要なものであることを能く理解せられ、自ら進んで、正確で、正直な申告をせられたいのであります。既に前三回の國勢調査は、全國民の一致協力に依つて、良好な結果を得たのであります。今回の調査には、更に從來に勝る好成績を挙げ、立派な結果が得られる様に、呉々も十分の注意を希望する次第であります。

## 國勢調査事務打合せ

いよく本格的な事務開始

今秋實施せらるべき國勢調査に就き本縣では去る五月二十一日より六月六日迄の間に於て、各市町村長及主任をそれ／＼招集して事務打合せを行つたが、六月六日縣廳内議事堂に開かれた水戸市及び東茨城の打合せは出席七十余名に達し、安藤知事も臨席、親しく訓示を述べられた、尙ほその他の各郡には川崎統計課長課員と共に列席、知事の訓示を代讀し、別記の指示及注意事項に就ては課員専ら之が説明にあたり、出席者との間に質疑應答を重ね、各所共異常の緊張をみせたが、之を以て本縣における國勢調査の幕は切つて落され、愈々本格的な事務に入り、統計課は目が廻るほどの忙しさである。

日 割	集 合 場 所	出 席 人 員	集 合 村
五月二十日	眞壁郡元自治會館	五八	眞壁郡一圓
同二十一日	猿島郡全	四八	猿島郡一圓
同二十二日	結城郡全	四七	結城郡一圓
同二十三日	北相馬郡全	四二	北相馬郡一圓
同二十四日	筑波郡全	五一	筑波郡一圓
同二十七日	土浦町役場	六七	新治郡一圓
同二十八日	蠶業取締所江戸崎支所	六八	稻敷郡一圓
同二十九日	行方郡農會	四〇	行方郡一圓
同三十日	鉢田町役場	四三	鹿島郡一圓
同三十一日	西茨城郡元自治會館	二七	西茨城郡一圓
六月三日	多賀郡全	四三	多賀郡一圓
同 四日	菅谷村役場	六七	那珂郡一圓
同 五日	久慈郡元自治會館	六四	久慈郡一圓
同 六日	茨城縣廳	七三	水戸市、東茨城郡一圓
計		七三八	

# 慎重事に當り

## 遺憾なきを期せ

### 安藤 知事 訓示

本日茲ニ各位ノ御參集ニ際シマシテ一言所懷ヲ申述アルコトヲ得マスコトハ私ノ定ニ欣快トスル所デアリマス  
現今我國ノ情勢ハ國際上ニモ幾多ノ重要問題ニ遭遇シテ居ルノミナラズ國內的ニモ亦非常ノ秋ニ際會シ財政、經濟其ノ他諸般ノ制度、政策ニ關シ新タナル計畫ヲ樹立致スノ必要ニ差迫ラレテ居ルノデアリマシテ之等ノ調査審議ノ基礎資料トシテ最近ノ事實ニ關スル正確廣汎ナル統計ニ對スル要求愈々切實ヲ加フルニ至ツタノデアリマス

斯ノ如ク統計ニ關スル社會ノ要望ノ熾烈トナリマシタコトハ畢竟統計ノ重要ナルコトガ認メラレタル結果デアリマシテ近時統計改善ノ跡相當顯著ナルモノガアルコトハ認ムル所デアリマスケレドモ今後之ガ重要性ハ一層増大スルコトト思考セラルルヲ以テ各位ハ其ノ使命ト影響ノ重大ナルコトヲ自覺セラレ統計ノ整備充實ノ爲ニ更ニ一段ノ御努力ヲランコトヲ切望スル次第デアリマス

## 指 示 事 項

### 一、調査區ノ分割ニ關スル件

調査區域ハ一調査員一日中ニ區内各世帯ニ申告書用紙ノ配付又ハ申告書ノ蒐集ヲ完結シ得ルヲ標準トス而シテ調査區數ノ多少ハ調査費ノ上ニ至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ前回ノ調査ヲ參酌シ事情ノ許ス限り増加セザル様努メラレタシ

### 二、國勢調査員ノ選任ニ關スル件

國勢調査ノ目的ヲ達成シ得ルト否トハ一ニ國勢調査員其ノ人ヲ得ルト否トニ在リサレバ其ノ銓衡ニ際シテハ特ニ意ヲ川キ況ク適當ナル人材ヲ得ルニ留意シ以テ調査ノ遂行上遺憾ナキヲ期セラレタシ

### 三、水面ノ調査ニ關スル件

水面ハ幾分陸上ト事情ヲ異ニシ之カ調査ニ付テハ水面ヲ管轄スル官署等ノ援助ヲ要スルコトアルベキヲ以テ水面地元ノ市町村ニ於テハ之等ノ援助ヲ得テ調査上支

扱テ今回ノ會議ノ案件デアリマス昭和十年國勢調査ハ國勢ノ基本ヲ明ニスベキ基礎的調査トシテ定ニ重要デアルノミナラズ昭和五年國勢調査以後五年間ニ於ケル我國狀ノ推移變遷ハ極メテ顯著ナルモノガアリマスノデ其ノ人口分布及構成ニ及ボシタル影響ヲ明ニスル上ヨリモ特ニ重要ナル意義ヲ有スルモノデアリマス之ガ調査ニ關シマシテハ既ニ政府ヨリ勅令、閣令其ノ他ノ公布ヲ見今後之ニ基キ各位ト共ニ直接調査事務ヲ管掌スルコトニナツタノデアリマスガ其ノ調査成績ノ如何ハ實ニ各位ノ今後ノ努力ニ俟ツ所頗ル多イノデアリマスカラ如上ノ趣旨ヲ了解セラルルト共ニ萬一ニモ調査員竝ニ一般國民ガ事ニ慣レテ緊張ヲ缺キ眞摯ノ態度ヲ失フガ如キ事ナキ様細心ノ注意ヲ拂フト共ニ調査員ノ選任ニ當リテハ國勢調査ノ準備ガ恰モ縣會議員總選舉ト其ノ時期接近シ居レルニ依リ選舉運動トノ誤解ヲ受クルガ如キ者ヲ避ケ以テ物議ヲ醸スガ如キコト無キニ努メ調査上遺憾ナキヲ期セラルル様切ニ希望スル次第デアリマス

是ヨリ會議事項ニ付キマシテ係官ヨリ詳細ニ指示協議致スコトニナツテ居リマスカラ各位ハ意ノアル所ヲ充分ニ了解セラルルト共ニ意見ノアル所ハ腹藏ナク開陳セラレマシテ會議ノ效果ヲ收メラルル様致シタイノデアリマス

障ナキ様適當ノ措置ヲ講ゼラレタシ

### 四、施行細則第九條ノ特別調査區域ニ關スル件

本縣ニ該當スル陸海軍ノ部隊、司法省所管ノ刑務所等ハ前回同様關係各主務省ニ於テ之ガ調査ヲ爲ス管ナルヲ以テ特別調査トナス箇所ハ追テ通知スベキモ若シ其ノ他ニモ特別調査ニ屬スベキモノニシテ通知漏ト認メラルルモノアリタルトキハ速ニ指揮ヲ請ハレタシ

### 五、調査ノ趣旨普及ニ關スル件

前三回ノ調査ニ於テ既ニ調査趣旨ノ徹底ニ努メタル結果縣民ノ大多數ハ理解シ居ルモノト認メラルルモ今回ハ前回ト調査事項ヲ異ニスル点アルヲ以テ過去ノ成績ニ油斷スルコトナク苟モ誤解ヲ招ギ本調査ノ遂行上支障ヲ來スガ如キコトナキ様努メラレタシ

### 六、人口分布ノ常態激變防止ニ關スル件

現在人口ノ調査ニ於テハ調査ノ時期ニナルベク人口分布ノ常態ヲ保タシムルノ必要アルヲ以テ本縣ニ於テハ豫メ共進會、展覽會、各種ノ大會、總會ノ開催、團體旅行、其ノ他人口分布ノ常態ニ激變ヲ生ズル虞アル行爲ヲ避ケシムル様關係方面ニ依命通牒ヲ發シタルヲ以テ市町村ニ於テモ本件ニ關シ適當ノ措置ヲ講ゼラレタシ

### 七、國勢調査豫習ニ關スル件

前三回ノ調査ニ於テハ國勢調査員ノ訓練申告義務者指導等ノ爲練習用紙ヲ各世帯ニ配付シ豫習ヲ行ヒタル向アルモ此ノ種ノ方法ヲ執ラルル場合ハ豫メ各世帯主ノ了解ヲ求メ絕對ニ各人ノ秘密ヲ保持シ記入ノ用紙ハ之ヲ本人ニ返戻シ苟モ疑惑ヲ生ゼシメ問題ヲ惹起スルガ如キコトナキ様留意セラレタシ

### 八、調査用紙、印刷物其ノ他ニ關スル件

市町村ニ於テ實査ニ要スル申告書用紙、照査表用紙、要計表用紙、國勢調査員必携等ハ内閣統計局ヨリ縣ニ交付シ縣ヨリ更ニ市町村ニ交付スルモノトス又申告書括ニ用フベキ表紙ハ縣ニ於テ交付スベキモ調査用紙ノ配給如何ハ調査ノ圓滑ナル遂行ニ密接ノ影響アルヲ以テ市町村ニ於テ用紙不足ヲ生ジタル場合ニハ直ニ之ガ補給ノ途ヲ講ジ以テ調査ノ遂行ニ遺憾ナキヲ期セラレタシ

九、調査時期ニ旅行スル者ノ申告ニ

關スル件

調査ノ時期ニ於テ旅行スル者ノ申告方ニ付テハ重複脱漏スルガ如キコトナキ様特ニ注意ヲ要スルモノニシテ旅行中ナルコト豫メ明ナル者ニアリテハ出發ノ際申告スルコトトシ之ニ申告済證券ヲ持參セシムル等最善ノ方法ヲ講ゼラレタシ

十、照査表ノ記入方ニ關スル件

照査表ハ國勢調査ニ於テ申告書ニ次グノ重要材料ニシテ將來人口組織ノ基本資料タルベキモノナルヲ以テ之ガ記入ノ正確

ヲ期スベキハ勿論ナルモ特ニ調査區域ヲ詳細明確ニ記入スル外第二欄世帯所在地ハ公定ノ地名番地ヲ明記スル様注意セラレタシ

十一、申告書ノ記入方ニ關スル件

申告書ニ記載スベキ調査事項中氏名、男女ノ別、出生ノ年月日、配偶ノ關係ハ從前ト異ルコトナキヲ以テ別段ノ困難ナカルベキモ大調査ノ場合ノ如ク「世帯ニ於ケル地位」等ノ調査事項ヲ缺クガ故ニ上記事項ノ申告ノ正否ヲ例ズルニ相當ノ支障ヲ伴ヒ又常住地ノ調査ハ全ク新ニ加ハリタル項目ニシテ之ガ記入方モ相當困難ナルベキヲ以テ申告書ノ記入方ニ付テハ調査員ニ於テ充分説明ヲ爲シ得ル様之ガ指導訓練ニ意ヲ注ギ申告義務者ニ其ノ正確ナル知識ヲ與フル様萬全ノ措置ヲ講ゼラレタシ

十二、準備調査、申告書用紙ノ配付

蒐集ノ期日ニ關スル件

調査員ガ各世帯ニ就キ調査ヲ執行スル期間ハ九月二十一日ヨリ十月五日迄ナルヲ

注意事項

一、調査區ノ設定認可申請ニ關スル件

調査區設定ノ認可申請書ハ地方事務取扱規程第十二條ニ依リ六月十五日迄ニ知事ニ提出スベキモノニ付期限内ニ必ズ提出シ又之ニ添付スベキ市町村略圖ハ大字、小字等ノ地理上獨立ノ稱呼ヲ有スル區域ヲ以テ境界トナシ之ニ依リ難キトキハ山岳河川、溝渠、道路等判明ナルモノニ依リ各調査區ノ境界ヲ定メ區劃ヲ表示セラレタシ

二、調査員ノ選定内申ノ件

(1) 調査員ハ地方事務取扱規程第十五條但書ノ設ケアリト雖原則トシテ一調査區一人ナルヲ以テ本縣ニ於テハ右原則ニ基キ一調査區一人トシ市町村全體ノ二割ヲ豫備員トシテ同時ニ選定シ調査區設定認可申請書ト共ニ内

申セラレタシ

- (2) 調査員ハ優先的ニ統計調査員トシ其ノ他前國勢調査員、元農業調査員在郷軍人會又ハ青年團幹部等ノ内ヨリ適任者ヲ選定スルコト
- (3) 水面ノ調査上警察官吏ヲ調査員トナスノ必要アルトキハ豫メ警察署長ト協議セラレタシ
- (4) 坑夫、土木工夫等多數集合シ居ル場屋ノ調査員選定ニ付テハ調査上便宜ノ地位ニ在ル者ヲ選定スル等特ニ注意セラレタシ

三、水面調査ノ件

船舶ノ輻湊スル水面ノ調査ニ關シテハ五月十三日統發第五二號通牒事項並左ノ各項ニ注意セラレタシ

- (1) 特ニ陸上ト離レ調査區ヲ設ケル必要アルトキハ世帯ヲ爲ス船舶約五十隻碇泊スベシト豫知セラルル毎ニ一調査區ヲ設ケルコト

以テ準備調査ノ期日ハ九月二十一日以後ニ於テ市町村長之ヲ定ムルモノナルモ各世帯ノ迷惑少キ日ヲ選ブヲ必要トス申告書用紙ノ配付ハ水面ノ場合ヲ除キ成ルベク九月二十九日迄ニハ各世帯ニ配付シ申告書ノ蒐集ハ十月一日中ニ完了スル様努メラレタシ

十三、市町村要計表ニ關スル件

市町村要計表ハ申告書通數、男女別人口ヲ集計シ作成スルモノニシテ其報告期限ハ十月二十日迄ナルモ期限内ニ成ルベク早く提出セララルル様努メラレタシ

十四、申告書ノ括數ニ關スル件

市町村長ハ申告書ヲ一調査區毎ニ一括トスル外一市町村全部ヲ一括又ハ數括ニ分割シ市町村要計表指定ノ箇所ニ其ノ括數ヲ記入スルノ外之ガ取扱ハ縣規則ニ定メタル如ク取扱フベキモノナルモ詳細ハ注意事項ニ之ヲ掲ゲタルニ依リ處理上遺憾ナキヲ期セラレタシ

(2) 調査區ノ境界ハ河川運河等ニ在リテハ橋梁、水門、曲り角、下水放流口等ニ依リ港灣ニ在リテハ何等境界トナル目標ナキトキハ特ニ旗竿等ヲ樹テ明確ナラシムルコト

- (3) 調査員ヲ推薦スル場合ハ水面ノ事情ニ通ジタル者例ヘバ水上勤務ノ警察官、運輸會社事務員、廻漕店員等ヲ選定スルコト
- (4) 船舶ニ對シ調査上ノ目標トナス爲ニ貼付スベキ青色紙、赤色紙ハ調査期間中褪色セザルモノヲ用フルコト
- (5) 帝國軍艦及御用船、外國ノ軍艦又ハ外國政府ノ所有船舶備船ハ之ヲ調査セザルコト

四、趣旨目的周知方ノ件

(1) 市町村吏員ハ勿論調査員ハ其ノ趣旨目的ノアル所ヲ了解シ苟モ誤解ナキヲ期スルト共ニ一般公衆ニ對シ調査ノ趣旨ヲ徹底セシムル方途ヲ講ジ同時ニ施行細則第十條、同第十一條等ノ趣旨ヲ明示スルコト

(2) 調査ノ時期ニ旅行スル者ハ調査事項

- (3) 小學校、青年團等ヲ利用シ趣旨ノ普及徹底ヲ圖ルコト
- (4) 適當ノ時期ニ縣ニ於テ印刷送付スベキ「ボスター」ヲ各部落多數人員ノ出入スル場屋ニ揭示スルト共ニ趣旨説明書ヲ各世帯ニ配付スルコト
- (5) 九月二十日前後ヨリ各部落ノ要所ニ國勢調査ノ注意ヲ揭示スルコト殊ニ交通頻繁ナル停車場附近ハ最モ必要トス

- (2) 本打合せニ於テハ調査員ヲシテ其ノ世帯ニ屬スル申告書ヲ記載練習セシメラレタシ

×世帯番號札ハ地方事務取扱規程第二十三條ニ依リ市町村長ニ於テ適當ニ調製スベキモノナルモ成ルベク一定セシムル爲左ノ式ニ依リ作成セラレダシ

第 調 査 區	世 帯 第	號
------------------	-------------	---

分三寸一尺曲幅

豎曲尺四寸

以上ノ事項ヲ實施シタルトキ及其ノ他市町村ニ於テ特ニ趣旨宣傳ノ方法ヲ講ジタル場合ハ其ノ事項方法等ヲ直ニ臨時國勢調査部長ニ報告スルコト

五、調査員ノ指導訓練ニ關スル件

- (1) 市町村長ハ地方事務取扱規程第十九條ニ依リ國勢調査員ノ擔當調査區ヲ指定後速ニ指示會ヲ開キ尙同第二十條ニ依リ臨時調査員ヲ招集シ事務ノ打合又ハ協議ヲ爲サシメラレタシ

七、申告書記人方ノ件

申告書ノ記入明瞭ナラザルトキハ検査ノ際甚ダシキ手數ヲ要シ一般事務ノ進捗ヲ妨グルノミナラズ調査ノ結果ニモ影響スベキヲ以テ充分注意セシメラレタシ

- (2) 八、寄宿舎、病院、旅店、下宿屋等ノ準世帯調査ノ件

- (1) 參詣者多キ神社、佛閣等ノ所在地又

ハ停車場附近ノ旅館ニ於テハ旅客輻湊シ且出入頻繁ナルベキガ故ニ往々調査ノ脱漏、重複ヲ來スノ虞レナキ能ハザルヲ以テ特ニ注意スルコト  
旅客ハ十月一日午前零時ノ現在者全部ヲ記入申告スルハ勿論申告書記入ノ範圍(ハ)ノ前段ニ當ル者アルトキハ之ヲモ記入申告セザルベカラズ仍テ九月三十日ニ出發スル旅客アルトキハ十月一日午前零時ヲ何所ニ於テ

過スヤ又明朝午前八時迄ニ何レノ世帯ニ入ルヤ聞キ質シ若シ(ハ)ノ前段ニ當ル者ナルトキハ該旅店ニ於テ申告スル旨ヲ旅客ニ告ゲ且之ヲ申告書ニ記入スルコト

九、鑛山ノ飯場、納屋、工場ノ寄宿舎等ニ於ケル調査ノ件

- (1) 鑛山ノ飯場、納屋等ニシテ鑛業主ノ經營ニ係ルモノアルトキハ之ガ調査ニ關シテハ鑛山主ノ助力ヲ求ムルコト
- (2) 鑛山ノ飯場、納屋、工場ノ寄宿舎及多數ノ集合定住スル準世帯ニ對シテハ豫メ其ノ係員等ニ注意シ調査事項中出生ノ年月日等照會ヲ要スル事項アルトキハ前以テ父兄等ニ問合セ置カシムルコト

括トナシ更ニ之ヲ調査區順ニ取纏メ一括又ハ數括トシタル後地方事務取扱細則第十七條ニ依リ左ノ表紙ヲ付シ一綴トナスコト

括細則第十七條ニ依リ左ノ表紙ヲ付シ一綴トナスコト

申告書大

自第	至第	村町	括ノ内第
第	第	調	調
第	第	査	査
第	第	區	區

十、申告書ノ檢査整理ノ件

- (1) 申告書ノ蒐集ヲ終リ申告書、照査表照査表寫提出アリタルトキハ地方事務取扱規程第三十條乃至第三十三條ノ手續ヲ爲シタル後市町村要計表ニ通テ作成シ申告書ハ一調査區毎ニ一

十一、調査用紙、印刷物其ノ他ニ關スル件

調査用紙ノ配給如何ハ調査ノ圓滑ナル遂行ニ密接ノ影響アルヲ以テ之ガ配給ニ際シテハ誤算ナキヲ期シ常ニ適當ノ豫備

十二、調査書類ノ保管方ニ關スル件

申告書其ノ他ノ調査書類ノ保管ニ當リテハ其ノ紛失毀損ヲ防グ爲取扱ヲ鄭重ニスルハ勿論特ニ火災、盜難ニ留意スルト共ニ各人ノ申告事項ノ漏洩及人口世帯數ノ

誤傳セラルルヲ避クル爲徒ニ調査書類ヲ  
調査關係以外ノ者ニ散見セシメザル様留  
意セラレタシ

十三、調査書類進達ノ件

- (1) 調査書類ノ進達ニ際シテハ途中紛失  
スルガ如キコトナキ様特ニ注意ヲ要  
ス
- (2) 書類ノ進達ハ期限ニ遅ルルガ如キコ  
トナキ様嚴守セララルコト

十四、市町村長ノ定ムベキ調査期日

ノ件

規程ニ依ル市町村長ノ定ムベキ左記事項  
ノ期日ハ次ノ如ク一定セラレタシ

記

- 一、地方事務取扱規程第二十二條ノ準備  
調査期日(施行令第十四條ノ範圍)
- 九月二十一日

(昭和十年七月九日臨時國勢調査部)  
(長通牒ニ依リ九月二十六日ニ變更)  
二、調査員心得第十二條ノ國勢調査員照  
査表提示期日

- 九月二十六日  
(昭和十年七月九日臨時國勢調査部)  
(長通牒ニ依リ九月二十七日ニ變更)
- 三、調査員心得第十六條ノ國勢調査員申  
告書用紙配付期日  
九月二十九日
- 四、調査員心得第二十一條ノ國勢調査員  
申告書蒐集期日  
十月一日午前八時ヨリ一日中
- 五、調査員心得第三十一條ノ國勢調査員  
ノ申告書其ノ他ノ書類提出期日  
十月六日迄

昭和十年國勢調査事務執行期限一覽表

事 務	縣	市 町 村	月 日	關 係 法 規
市町村長及主任者會議	六月五日前			
調査區設定認可申請及認可報告	〔七六〕		六、一五迄	施行令第九條、施行細則第二條、取扱規程第一條、全第九條、全第十二條乃至全第十四條、縣細則第九條
調査員選定内申	六		六、一五迄	施行令第十條、全第十一條、取扱規程第二條、全第十五條、縣細則第十條
調査員氏名告示	七		七	施行細則第三條、全第四條、取扱規程第十八條
調査員ノ辭令徵章ノ交付	七		七	施行令第十二條、取扱規程第三條、全第十六條
調査員ノ指導訓練市町村ノ指示會	〔八七〕		〔八七〕	取扱規程第九條、全第十九條、全第二十條
照査表欄外ノ記入及捺印			〔八七〕	取扱規程第十七條

趣旨ノ普及並狀況視察	九、二〇迄	九、二〇迄	九、二〇迄	取扱規程第十條
申告書用紙欄外記入		九、二〇迄	九、二〇迄	取扱規程第二十九條
世帯番號札ノ調製交付		九、二〇迄	九、二〇迄	取扱規程第二十三條
調査員ノ打合協議會及狀況視察	九、二〇迄	九、二〇迄	〔九、二一〕	取扱規程第十九條、全第二十條、縣細則第十一條
準備 調 査		〔九、二一〕	〔九、二一〕	取扱規程第九條、全第二十二條
照査表ノ檢査		九、二一後	九、二一後	取扱規程第二十四條
申告書用紙交付		九、二一後	九、二一後	施行令第五條、取扱規程第三條、全第九條、全第二十五條、縣細則第十二條
申告書用紙殘餘數報告		九、二一後	九、二一後	取扱規程第二十六條
申告書用紙不足補給請求	九、二〇後	九、二一後	九、二一後	取扱規程第二十七條、全第二十八條
準備調査終了報告		九、三〇迄	九、三〇迄	縣細則第十五條
調 査	一〇、一	一〇、一	一〇、一	施行令第一條
準備調査ノ狀況視察並指揮監督	〔九、二一〕	〔九、二一〕	〔九、二一〕	施行令第六條、全第八條、縣細則第十三條
天災事變ノ報告	一〇、一	一〇、一	一〇、一	施行令第十六條、取扱規程第五條、全第十一條、縣細則第十六條
申告書蒐集終了報告		一〇、六	一〇、六	縣細則第十五條
申告書照査表ノ受付		一〇、六	一〇、六	施行令第十五條、取扱規程第三十七條
申告書照査表要計表檢査檢算整理	〔一〇、二一〕	〔一〇、二一〕	〔一〇、二一〕	取扱規程第四條、全第九條、全第三十條乃至全第三十六條、縣細則第十七條
縣郡市要計表ノ上級廳ニ進達	一、一、三〇迄	一〇、二〇迄	一〇、二〇迄	施行令第十五條、取扱規程第四條、全第九條、全第三十七條、縣細則第十八條
申告書照査表檢査市町村要計表上級廳へ進達	一、二、一〇迄	一〇、二〇迄	一〇、二〇迄	施行令第十五條、取扱規程第四條、全第九條、全第三十七條、縣細則第十八條



實査用印刷物交付數豫定

種別	縣	市	町	村
國勢調査申告書用紙	市町村交付數ノ百分ノ三	世帯數ノ十二割		
照査表用紙	市町村交付數ノ〇割一分四厘	調査區數ノ四倍 二二、六八四		
市町村要計表用紙	市町村交付數ノ四割〇分三厘	一市町村ニ付三枚 一、一四〇		
郡要計表用紙	一郡ニ付四枚			
縣要計表用紙	一縣ニ付三枚			
調査員必携	一縣六〇〇冊	調査員各一冊	市町村係員四冊	

備考 世帯、調査區、調査員ハ昭和五年國勢調査ニ依ル

寄贈圖書

昭和八年 朝鮮總督府統計年報  
 統計界(四月號)  
 三重縣統計書(第二編)  
 昭和八年 愛知縣統計書  
 昭和八年 和歌山縣統計書  
 昭和八年 京都市第二五回統計書  
 昭和八年 關東洲貿易統計  
 主ナル家畜ノ統計

朝鮮總督府  
 岩手縣統計協會  
 三重縣  
 愛知縣  
 和歌山縣  
 京都市役所  
 關東洲廳  
 和歌山縣統計課

昭和八年 山梨縣統計書  
 昭和八年 群馬縣統計書  
 山梨縣養蠶統計一覽  
 山梨縣の米麥  
 昭和八年 大日本帝國港灣統計要覽  
 昭和七年 岩手縣統計書  
 工業現勢(第五號)  
 統計界(五月號)

山梨縣  
 群馬縣  
 山梨縣統計課  
 全上  
 內務省土木局  
 岩手縣  
 東京工業大學  
 岩手縣統計協會

地方統計課長會議

國勢調査に關する地方統計課長會議  
 は去る四月二十四、二十五の兩日に亘り内閣統計局會議室に於て開催されたが本縣よりは川崎統計課長及小林屬が出席した。

會議は先づ劈頭に吉田内閣書記官長及長谷川内閣統計局長より左記の如き訓示があつて議事に入り指示及注意事項につき本局各關係課長より詳細な説明があり地方廳提出事項其の他を審議した。

内閣書記官長訓示

本日茲ニ、地方統計課長會議ノ開催セラ  
 ルルニ當リマシテ、一言所懐ヲ申述ブル  
 コトヲ得マスノハ、私ノ寔ニ欣幸トスル  
 所デアリマス。  
 現今我國ノ情勢ハ、中央地方ニ亘リ、財  
 政、經濟其ノ他諸般ノ制度政策ニ關シ、  
 新ナル計畫ヲ樹立致スノ必要ニ差迫ツ

テ居ルノデアリマシテ、之ガ調査審議ノ  
 基礎資料トシテ、最近ノ事實ニ關スル正  
 確廣汎ナル統計ニ對スル要求ノ甚ダ切實  
 ナルモノガアリマス。近時統計改善ノ跡  
 ノ相當顯著ナルモノガアリマスガ、現下  
 ニ於ケル統計ノ任務ノ特ニ重大ナルコト  
 ヲ自覺セラレ、其ノ整備充實ノ爲ニ、更  
 ニ一層精勵セラレンコトヲ希望シテ己マ  
 ナイ次第デアリマス。

扱テ、此度ノ會議ノ主題ニ致シテアリマ  
 スル昭和十年國勢調査ハ、國勢ノ基本ヲ  
 明ニスベキ基礎的調査トシテ、寔ニ重要  
 デアルノミナラズ、昭和五年國勢調査以  
 後五年間ニ於ケル我國狀ノ推移變遷ハ、  
 極メテ顯著ナルモノガアリマスノデ、其  
 ノ人口分布及構成ニ及ボシタル影響等ヲ  
 明カニスル上ヨリ致シマシテモ、今回ノ  
 調査ハ特ニ重要ナル意義ヲモツモノト申  
 サネバナリマセン。諸君ハ、本調査ノ成  
 績ヲ決定スベキ地方實査ヲ直接指導スベ  
 キ地位ニ在ルノデアリマスカラ、其ノ責  
 任ノ重大ナルニ鑑ミ、調査ノ準備施行ニ  
 萬全ヲ期セラレンコトヲ切ニ希望致ス次  
 第デアリマス。

尙諸般ノ會議事項ニ キマシテハ、當局  
 ノ指示ニ依リ、能ク其ノ意ノ在ル所ヲ了  
 得セラルト共ニ、十分協議ヲ盡サレン  
 コトヲ希望致シマス。

内閣統計局長訓示

本日茲ニ、各位ノ御參集ヲ煩ハシマシテ  
 私カラモ一言所見ヲ申述ブルコトヲ得マ  
 スノハ、寔ニ欣懷ニ堪ヘナイ所デアリマ  
 ス。  
 時勢ノ要求ニ應ズル爲、近時各種統計調  
 査ノ施行其他ノ施設ノ行ハルルモノガ、  
 次第ニ多クナツテ參リマスト共ニ、各位  
 ノ不斷ノ努力ニ依リマシテ、漸次統計ノ  
 整備充實ニ關シ成績ノ見ルベキモノノア  
 リマスコトハ、私ノ最モ満足スル所デア  
 リマス。殊ニ過般地方官官制ノ改正ニ伴  
 ヒマシテ、多數ノ諸縣ニ、統計事務管掌  
 ノ爲ニ一課ガ設置セラレマシテ、茲ニ全  
 府縣ニ及ブニ至リマシタ事ハ、統計機構  
 ノ整備ニ關シ、豫テ私共ノ抱懷シテ居リ  
 マシタ理想ノ一端ノ實現セラレタルモノ  
 デアリマシテ、各位ト共ニ同慶ニ堪ヘナ  
 イ所デアリマス。而シテ此ノ如ク統計機

構整備ノ機運ニ至リマシタコトハ、結局現時ニ於ケル統計ノ重要性ヲ反映スルモノト考ヘラルルノデアリマシテ、統計ノ整備充實ニ關シ、各位ト共ニ今後一層ノ努力ヲ致サネバナラヌト存ズル次第デアリマス。

扱テ、今回ノ會議ニ於テ主題ニ致シテ居リマスル昭和十年國勢調査ニ關シマシテハ、過日勅令、閣令等ノ公布ヲ見マシタノデ、今後之ニ基キ、各位ト共ニ、支障ナク圓滑ニ施行セラルルコトニ努力致シタイト存ズル次第デアリマス。而シテ本調査ノ計畫ニ關シマシテハ、豫テ本會議ニ於テ各位ノ意見ヲモ徵シマシテ、一方時勢ノ推移、社會ノ要望ニ鑑ミ、他方我國目下ノ財政事情ヲモ考慮致シマシテ、種々研究ヲ重ネマシタ結果、調査事項ニ於キマシテハ、我國ニ於テ未ダ曾ツテ調査シタルコトナキ常住人口ニ關スル資料ヲ提供致シマス爲ニ、大正十四年國勢調査ノ際ニ調査致シマシタ人口ニ關スル四項目ノ外ニ、新ニ常住地ヲ加フルコトニ相成ツテ居リマス。更ニ、今回ノ調査ニ於キマシテハ、大正十四年ノ調査ト異ナ

リ、地方分查ノ集計方法ヲ改メマシテ、中央集查ノ方法ニ依ルコトト致シマシタ又大正十四年國勢調査ニ於キマシテハ、地方交付金ハ無カツタノデアリマスガ、今回ノ調査ニ於キマシテハ、僅カデハアリマスガ、地方交付金ノ計上ヲ見タノデアリマス。此等ノ改正ハ、調査結果ノ正確ヲ期シ、地方ノ負擔ヲ軽減セントスル趣意ニ依ルモノデアリマス。之ヲ要スルニ、今回ノ調査ハ、調査事項ヲ基本的人口事項ニ限局スル外ハ、大調査ト殆ンド同一ノ形式ノ下ニ施行セラルルコトト相成ツタノデアリマス。サレバ各位ハ、如上ノ趣旨ヲ了得セラレ、國勢調査ノ回ヲ重ヌルニ從テ、調査員員並ニ一般國民ガ事ニ慣レテ萬一ニモ緊要ヲ缺キ、眞摯ノ態度ヲ失フガ如キ事ナキ様十分留意シテ、優秀ナル成績ヲ收ムル様盡力セラレムコトヲ切望致シマス。

相成ツテ居リマス。而シテ今年ノ調査ニ於キマシテモ、昭和五年調査ト同様ニ、府縣ヲ煩ハシテ標本的實地調査ヲ施行致ス豫定デアリマスガ、今年ハ之ヲ施行スル府縣數ヲ増加シ、益々調査結果ノ正確ヲ期スル所存デアリマスカラ、各位ノ一層ノ盡力ヲ希望致ス次第デアリマス。只今ヨリ、此等ノ事項ニ付キマシテ指示協議ヲ致シマスガ、各位ノ眞摯ナル意見ハ腹藏ナク披瀝セラレマシテ、會議ノ効果ヲ收ムル様致シタイト存ジマス。

◇指示事項

- 一、調査區ノ分割ニ關スル件
  - 二、國勢調査員ノ選任及訓練ニ關スル件
  - 三、特別調査區域ニ關スル件
  - 四、附帶調査ニ關スル件
  - 五、調査書類ノ提出期限及結果ノ發表ニ關スル件
- ◇注意事項
- 一、水面ノ調査ニ關スル件
  - 二、人口分布ノ常態激變防止ニ關スル件

三、國勢調査ノ豫習ニ關スル件

- 四、調査用紙、印刷物其ノ他ニ關スル件
- 五、調査書類ノ保管方ニ關スル件
- 六、準備調査、申告書用紙ノ配付及申

告書ノ蒐集ノ期日ニ關スル件

- 七、照査表ノ記入方ニ關スル件
- 八、申告書ノ記入方ニ關スル件
- 九、郡市區町村順序報告ニ關スル件
- 一〇、要計表ニ記入スベキ郡市區町村

順序ニ關スル件

- 一一、申告書ノ括數ニ關スル件
- 一二、審査書類送付ニ關スル件

寄贈圖書

昭和七年 第五八回海軍省年報  
 昭和九年 東京株式取引所統計年報  
 昭和八年 工業經營狀況調  
 昭和八年 佐賀縣統計書(第二編)  
 昭和八年 兵庫縣會社一覽  
 昭和八年 京都府統計研究會誌  
 昭和八年 資源(第五卷第五號)  
 昭和八年 兵庫縣工場統計表  
 昭和八年 臺灣總督府第三十七統計書  
 昭和八年 臺灣商工統計  
 昭和八年 東京府勢要覽  
 昭和九年 鹿兒島縣勢一覽  
 昭和九年 千葉縣勢要覽  
 自昭和八年九月 國勢上より觀たる石川縣の地位  
 至同 九年八月 家計調査報告  
 昭和八年 工場統計表

海軍大臣官房  
 東京株式取引所  
 商工大臣官房  
 佐賀縣  
 兵庫縣統計課  
 京都府統計研究會  
 資源局  
 兵庫縣統計課  
 臺灣總督府調查課  
 臺灣總督府殖産局  
 東京府  
 鹿兒島縣  
 千葉縣  
 石川縣  
 內閣統計局  
 商工大臣官房

昭和九年 大分縣治要覽  
 昭和八年 大連港勢一斑  
 昭和九年 臺灣犯罪統計  
 昭和九年 宮崎縣米作統計  
 職業紹介公報  
 石川縣の地位  
 いしづゑ(五月號)  
 昭和八年 群馬縣統計書  
 昭和八年 鹿兒島縣統計書  
 五月號統計  
 最近神奈川縣勢概要  
 神戶市勢要覽  
 昭和十年 版福井縣勢  
 昭和九年 福井縣統計書  
 千葉縣市町村統計要覽  
 昭和十年 版山口縣勢要覽  
 昭和九年 米麥及礦産額統計表  
 昭和九年 米統計表  
 昭和八年 奈良縣統計書

大分縣統計課  
 南滿洲鐵道株式會社  
 臺灣總督府  
 宮崎縣統計課  
 中央職業紹介事務局  
 石川縣  
 福岡縣統計協會  
 群馬縣  
 鹿兒島縣  
 千葉縣統計協會  
 神奈川縣統計課  
 神戶市役所  
 福井縣  
 福井縣  
 千葉縣統計課  
 山口縣  
 農林大臣官房  
 農林大臣官房  
 奈良縣



近ごろ縣當局の指導督勵や、本誌の模範町村紹介等に刺戟されて、優良町村の視察を企つるもの頗る多く、どうしたらわが統計を一層完全なものにすることが出来るか、どこが劣つてゐるのか、どこが進んでゐるのかと、ひたすらに躍進を目ざして、一様に研究的態度に向つて來たのは喜ばしい傾向である、この寫眞に掲ぐるところの鹿島郡矢田部村統計調査員は長谷川主任書記引率のもとに同郡諏訪村を視察、猿島郡八俣村調査員は高橋主任等と共に是亦優良町村の視察を遂げ、何れも縣廳に立寄り統計課員の執務ぶりや、計數機等を見學し、更に市内の名所を巡覽し、暗いから暗いまで有意義な一日を過して引あげた。

寫眞 (上)前列右より矢田部村長谷川書記、郡擔任齋藤縣統計課囃記、川崎統計課長、小林縣屬、其他は矢田部村統計調査員  
(下)前列右より二人目、八俣村高橋書記、中央川崎統計課長、次は郡擔任筑内統計主事補、その他は八俣村統計調査員



各統計雜信

調査員諸君  
何なりと揮  
つて御通信  
を願ひます

東茨城統計事務研究

東茨城郡統計事務研究會第三支會の事務打合せは六月十五日橋村役場に於て開催され縣統計課より吉見屬が臨席した、午前十時中島橋村長の開辭に次いで吉見屬より縣提出事項に就き説明質疑應答を爲し午後一時閉會した、會議事項は統計調査員の指導訓練、國勢調査事務、重要生産物の豫想及實收高公表其他數件である。

筑東統計事務研究

統計の重要性に鑑み、事務の研究、調査員の指導訓練、統計思想の普及を

目ざして結成された筑東山根部會統計事務研究會は六月十七日午前九時から新治郡互會村役場に開催、柿岡町外七ヶ村の主任全部出席、春蠶豫想、收繭高調査、桑苗調査、統計調査員指導訓練、國勢調査事務取扱その他につき研究した、出席者左の如し

- (柿岡町)江畑 書記 (小櫻村)岡田書記
- (小幡村)高橋 書記 (葦穂村)足立書記
- (戀瀬村)入江 書記 (岡部村)大槻書記
- (林 村)小松崎書記 (互會村)比氣書記

多賀産業統計事務研究

多賀郡北部統計事務研究會總會は五月二十日午前十時から松岡町役場に於

て瀧副會長司會の下に開會、昭和十年度同會收支豫算並昭和九年度同會收支決算を孰れも満場一致可決、それより事務の研究に移り縣より出席の成瀬屬より縣提出指示、注意事項の説明をなし更に各町村の質疑に就て應答をなした、出席者は左の通りである。

- (縣統計課) 成瀬屬
- (町村) 松原町沼田書記、松岡町佐藤書記、高岡村豊田書記、南中郷村瀧書記、磯原町長瀬書記、華川村鈴木書記、關南村中軍書記、大津町二田書記、平湯町本瀧書記、關本村水野書記

猿島支部研究會

猿島郡支部總會は去る五月二十日午前十時半より郡農會樓上に開催、縣統計課より小林屬並郡擔任の筑内主事補臨席、支部長遠藤境町長開會を宣し、紀元節に統計事務功勞者として縣統計協會總裁より表彰された古河町書記森茂右衛門、長田村書記加藤由之助兩氏

野周兵衛

### 新治郡支部設置

新治郡町村長會主催の統計事務研究会は五月十日土浦町公會堂に開催したが研究会に先立ち、既に統計協會總裁より表彰された斗利出村統計調査員野口義一郎氏、九重村全倉田清之助氏、柿岡町書記上會惣七氏に對する傳達式を舉行、縣より臨席の川崎統計課長から表彰狀並に記念品を授與、總裁の式辭代讀の後秋谷町村長會長の祝辭、受賞者の答辭ありて傳達式を了へ更に町村長會長より統計協會支部設置の議を諮り異議なく可決、午後零時二十分より研究会に移り川崎統計課長より激勵の挨拶があり虎口屬から縣提出の事項に就て詳細説明をなし研究協議の上午後二時閉會した。

當日の出席者は左の通りである。

川崎統計課長、郡擔任虎口屬 秋谷郡町村長會長、村山全幹事 眞鍋町松延書記

矢村長 小林書記 (飯島村) 染谷書記 (神大實村) 海老原村長 羽富書記 (岩井町) 大島書記 (七郷村) 富山村長 茂呂書記 (中川村) 瀧本助役 (境町) 遠藤町長 西村書記、江崎書記、田邊書記 (長須村) 片倉助役、後藤書記

### 稻敷郡南部研究会

稻敷郡南部統計事務研究会は五月十日午前十時から大宮村役場に開催、縣より郡擔任の關屬臨席した、同村豊崎助役の開辭について縣提出の事項を關屬より詳細説明の後質疑應答をなし午後二時十分閉會した、出席者左の如し。

長竿村書記秋山忠吉、生板村書記大野芳雄、奥野村書記中島佐重郎、牛久村書記久地岡己之吉、長戸村書記岡野富之助、駒柴村書記松尾貞三郎、八原村書記野村松男、柴崎村書記油原眞、根本村書記大塚貞之助、岡田村書記佐藤實、荳崎村書記島田善吉、龍ヶ崎町書記海老原三代太郎、大宮村助役豊崎省吾、同村書記飯

に對する表彰狀傳達式を行ひ、總裁代理小林屬よりこれを傳達、總裁の式辭を代讀し、遠藤郡支部長の祝辭、受賞者總代森書記の答辭、小林屬の祝詞を兼ねた挨拶があつて閉式、少憩の後引續き研究会に移り縣提出の指示注意事項に就き筑内主事補の説明あり質疑應答を重ね閉會した、出席者は左の通りである。

(統計課) 小林屬 筑内主事補 (古河町) 小出助役 森書記 (新郷村) 小倉村長 秋庭書記 (勝鹿村) 青木助役 長濱書記 (岡郷村) 館野村長 中山書記 (櫻井村) 江原村長 江原書記 (香取村) 山中村長 青木書記 (五霞村) 藤沼助役 小野寺書記 (靜村) 齋藤助役 五月女書記 (長田村) 麻生村長 加藤書記 (八俣村) 高橋書記 (幸島村) 鈴木村長 赤岩書記 (猿島村) 鈴木村長 野中書記 (森戸村) 佐怒賀村長 村田書記 (生子管村) 塚原村長 鶴見書記 (逆井山村) 鈴木村長 和田書記 (七重村) 眞中村長 中村書記 (香掛村) 立入書記 (弓馬田村) 古

上天津村大野書記、下天津村松葉書記、美並村松澤書記、牛渡村小松村長、同稻生書記、佐賀村折本書記、安飾村小室書記、志士車村狩野村長、關川村狩谷書記、高濱町小松崎書記、田余村田口書記、玉川村野口書記、石岡町渡邊書記、關部村大槻書記、瓦會村比氣書記、林村小松崎書記、荳穂村岡野書記、戀瀬村富田村長 同谷仲書記、柿岡町吉田町長、同江畑書記、小幡村高橋書記、志筑村金子書記、新治村小倉書記、七會村高平書記、都和村福田書記、藤澤村來栖書記、斗利出村 御田寺助役、同酒井書記、山ノ莊村勝村書記、九重村狩谷書記、榮村片岡村長、同豊島書記、栗原村中泉書記、東村宮本書記、中家村安達雇、同杉山書記補、土浦町内田書記、三村海東書記

### 筑波郡支部總會

本縣統計協會筑波郡支部總會は四月二十二日午前十時より筑波郡大穂村役場樓上に於て開催、縣より川崎統計課長並に郡擔任の岡崎主事補臨席、山中(北部)横田(中部)統計事務研究会長及

び町村長、統計主任者等多數參集、山中大穂村長議長となつて支部設立の件をはかり異議なく決定、次いで紀元節の佳辰に際し統計功勞者として縣統計協會總裁より表彰された高道祖村書記飯岡榮助、島名村農林商工統計調査員鯉淵五郎右衛門、鹿島村書記小林靜譚氏に對する表彰狀傳達式を行ひ、川崎統計課長これを傳達して總裁の式辭を代讀、横田島名村長、山中大穂村長の祝辭、被表彰者總代飯岡氏の答辭あり次いで川崎統計課長より祝詞を兼ね一場の挨拶ありて閉式、引續き研究会に移り縣提出の指示、注意事項に就き岡崎主事補の説明あり熱心研究するところあつた、出席者左の通りである。

(統計課) 川崎統計課長、岡崎主事補、(大穂) 山中村長、柳町書記 (谷田部) 橋本町長、中村書記 (小張) 山口書記 (板橋) 中島書記 (久賀) 羽田書記 (三島) 直井助役 (谷井田) 渡邊書記 (豊荒川) 村長 (鹿島) 沼尻助役、小林書記 (長崎) 川口書記 (福岡) 飯泉書記 (島名) 横田

### 那珂西部研究会

那珂郡西部支部では四月二十六、七の兩日、山方小學校に於て統計事務研究会を開き縣統計課より渡邊臨席、午前十時瀨尾山方村助役の開辭に次いで渡邊屬より縣提出事項を説明して後各町村より提出の研究事項により研究を重ねた、出席者は左の諸氏である。

山方村助役瀨尾茂一、山方村書記根本孫次、大場村書記三村市太郎、上野村書記萩谷昌三、大宮町書記阿久津佐之介、大賀村書記大森健太郎、玉川村書記寺門幸夫、鹽田村書記岡崎輝吉、小瀬村書記橋本信雄、野口村書記神村勝太郎、長倉村

書記大森一之、八里村書記田澤壽、巖郷村書記青木金之介

## 結城郡研究會

結城郡統計事務研究會は四月二十日午前九時より結城郡自治會館に於て開催、縣より川崎統計課長及小泉屬が臨席縣提出指示及注意事項に付き詳細説明をなし熱心に研究する處があつた、次いで去る二月十一日紀元節の佳辰を卜し統計功勞者として本縣統計協會總裁より表彰された全郡名崎村書記塚原龍藏、水海道町農林統計調査員堀越留吉兩氏に對する傳達式を行ひ、川崎統計課長これを傳達し、總裁の式辭を代讀してのち一場の挨拶を述べ續いて石塚大花羽村助役の祝辭、受賞者代表名崎村塚原書記の答辭あつて午後一時閉會した、當日の出席者左の如し。

△縣廳川崎統計課長、小泉屬、△郡町村長會鈴木幹事、△結城町海老原書記、絹川村織田書記、江川村福田書記、山川村朝倉助役、上山川村大島書記、中結城村

心に研究する處あつた、出席者左の如し。

△縣廳川崎統計課長、高島屬△町村長會池田會長(關本町長)赤城副會長(上野村長)△統計研究部 澤邊部長(下妻町長)△町村長其他 安田大寶村長、山口下妻町助役△町村統計主任、下妻町小澤書記大寶村横瀨書記、關本町横瀨書記、上妻村倉持書記、河内村杉山書記、川西村柴助役、騰波ノ江村程塚書記、黒子村渡邊書記、鳥羽村眞田書記、上野村大林書記下館町中書記、竹島村大山書記、差蠶村谷口書記、河間村國府田書記、五所村塚越書記、伊讚村大越書記、大田村濱野書記、嘉田生崎村渡邊書記、古里村戸頃書記、新治村海老澤書記、眞壁町池田書記、大村中村書記、長讀村篠崎書記、谷貝村大畑書記、紫尾村野村書記、樺穂村入江書記、雨引村鈴木書記

## 那珂郡表彰傳達式

那珂郡町村事務研究會は三月二十八日那珂郡湊町役場樓上に開催、縣統計

吉川書記、名崎村塚原書記、安齋村國府田書記、大花羽村石塚助役、菅原村大根書記下結城村荒井助役、豊岡村中島書記、西豊田村飯村書記、總上村松崎書記、豊加美村野村書記、蠶飼村須藤書記、宗道村青木書記、玉村都井書記、石下町山田書記、豊田村倉持書記、五箇村長岡書記、三妻村船張書記、飯沼村直江書記、水海道町小島書記

## 稻敷郡支部創立

本縣統計協會稻敷郡支部設置並統計事務績者表彰傳達式舉行の爲、同郡町村長會では四月十八日縣蠶業取締所江戸崎支所に臨時總會を開催した、縣より川崎統計課長並郡擔任者關屬臨席し、小澤町村長會々長以下各町村長出席、劈頭先つ過般紀元節に本縣統計協會總裁より表彰された奥野村助役吉田市藏、高田村助役伊藤弘藏、源清田村書記廣瀨法潤諸氏に對する表彰狀傳達式を行ひ川崎統計課長表彰狀並記念

課より川崎統計課長及渡邊、高島兩屬臨席、午前十二時西野町村長會長の開會の挨拶に次いで囊に表彰された村松村書記大内重良、瓜連町囑託龍崎由之介、野口村書記西村勝太郎諸氏に對する表彰狀傳達式を舉行、川崎統計課長より表彰狀並記念品を授與して安藤總裁の式辭を代讀、更に一場の挨拶あり西野會長の祝辭、受賞者總代西村勝太郎氏の答辭あり、續いて同郡支部創立總會に移り異議なく設置の件を可決した、次いで高島屬より學事年報作成上に關し詳細説明あり質疑應答を重ねつ熱心に研究された、出席者左の如し  
西野町村長會長、宮本、岡崎兩副會長、澁校大津校長、川田校安校長、村松校仲田訓對、木崎校井上訓導、檜澤校小室校長、野口校所訓導、湊町樺村書記、平磯町平井書記、岡野野書記、湊町深野野書記、前渡村大和田書記、中野村横須賀書記、勝田村藤咲書記、川田村關澤書記佐野村小澤書記、村松村大内書記、石神村黒澤助役、神崎村澤畑書記、額田村加

品を授與して安藤總裁の式辭を代讀し更に一場の挨拶を爲し小澤町村長會々長の祝辭、受賞者總代吉田市藏氏の答辭ありて閉式、續いて同郡支部創立總會に移り支部設置の件を議決した、

## 眞壁郡統計部總會

眞壁郡町村長會役場事務研究會統計部總會は去る四月十日下妻町農業倉庫樓上に於て開催、縣統計課より川崎統計課長及高島屬臨席され午前十時池田眞壁郡町村長會長開會を宣し二月十一日紀元節の佳辰に表彰された大寶村書記横瀨定平、關本町書記横塚良助、古里村書記戸頃普諸氏に對する傳達式を舉行し池田町村長會長、澤邊統計部長の祝辭あり、終つて澤邊統計部長議長席に着き縣統計協會眞壁郡支部設置の件をはかり満場一致可決し、直に統計事務研究會に移り縣提出會議事項につき高島屬の詳細説明あり出席者交々立つて或は意見を述べ或は疑問を質し熱

藤書記、菅谷村小林書記、五臺村海野書記、柳河村菊池書記國田村蘭部書記、戸多村繪山書記、芳野村綿引書記、木崎村高畑書記、瓜連村秋山書記、靜村齋藤助役、大場村三村書記、上野村小林書記、大宮町藤田書記、大賀村助川書記、玉川村海老根助役、鹽田村横山書記、檜澤村岡崎書記、小瀬村粕谷書記、野口村粕谷助役、長倉村佐藤助役、巖郷村青木書記

## 舊記より

本年一月一日より我國の書狀新聞紙等は我國の郵便切手を以て地球中文明諸邦へは盡く通することとなりぬと云ふ。然し必ず書信は米國を経て然る後に達するものなり舊來は外國郵便切手を用ゐざれば達せざりしが初て是盛舉に至れりと(明治八年一月)



# 逆ばしる感激の言葉

## 表彰の光榮に浴して

### 我村の一大變革

村松村 統計主任 大内 重良

紀元節の佳辰に際し統計事務功績者として表彰せられました事は誠に身に餘る光榮であります。

顧みれば私は昭和三年一月書記就職勸業統計、學事統計、庶務を擔任し七ヶ年の長日月を閲するも何等得る所なきにも拘らず榮ある表彰の恩典に浴しました事は偏に統計課長殿並に縣係官各位の熱誠なる御指導の賜ものと深く感謝の意を表する次第であります。本村は現在畑七百町歩余田三百五十

様致す覺悟であります。

### 只だ感激に顫ふ

筑波郡高道 村松村書記 飯岡 榮助

私圖らずも表彰の光榮に浴し、只だ感激に顫へて居ります。今後は層一層懸命の努力を注ぎ、村統計事務革新のために、統計協會筑波支部飛躍のために、及ばずながら御期待の萬一に酬りたいと熱禱してやまぬものであります

### 偏に御指導の賜

筑波郡鹿 島村書記 小林 靜

私は紀元の佳節統計事務功勞者として協會總裁閣下より表彰の恩典に浴し四月二十二日これが傳達式を大穂村役場に開催せられ拜受の光榮を荷ひました、感激措く能はざる次第であります。願れば大正十五年極月本村書記拜命以來最も重要なべき各種統計事務に

町歩余を有するも眞崎浦耕地整理地區愈々完成を見、換地交付も近日中となり田に於て五十町歩余を増し、又一方には大日本結核豫防協會療養所が建設中でありまして之れが竣工の時は人口も相當増加すべく豫想せられ統計事務上に一大變革を來し愈々責任の重大を感ずるものであります。

惟ふに統計は社會各般の事情を密かにし總ての政策施設の指針をなすものでありまして其の正確なる基礎資料を得ると否とは調査の第一線に立つ調査員の熱意と一般民衆の理解とに依る所頗る大なるを思ひ兩者相協調し今後益々奮勵努力以て表彰の趣旨に背かざる

當りましたが、元より淺學菲才、唯々其の務にあやまちなからん事を懸念しつゝありましたに計らずも此の度の光榮に浴しました事は偏に歴代郡擔當主任の方々及び本村長初め同僚各位の適切な御指導御鞭撻の賜と深く銘謝し併せて本村調査員諸氏が常に正確なる調査資料を寄せられた結果に外ならぬと固く信じます。

社會百般の施設經營一として基礎を統計に依らざるものなく漸く統計の重要性を傳へらるゝ時益々奮勵努力本事務の完璧を期し此の榮譽の萬分の一に酬るる覺悟であります。

### 理解ある村當局

新治郡斗利出 統計調査員 野口 義一郎

今般小生統計協會より成績優良のゆゑを以て表彰の光榮に接することを得ました、願ひますれば就任以來九ヶ年余、大過なく過し得ましたことは一に

### 町村統計主任異動

(上は新任 弧括内舊)

- 昭和十年五月十二日 筑波郡北條町 飯竹 長吉 (島田 惣助)
  - 同 五月二十日 筑波郡上郷村 右濱 延雄 (大崎 永次)
  - 同 五月十八日 多賀郡磯原町 長瀬 昇 (滑川 寅雄)
  - 同 五月五日 黒澤 嘉惠 (黒澤 定男)
- 統計調査員増員**
- 昭和十年四月二十日 那珂郡大場村 猿 田 銀 之
  - 同 三月廿八日 東茨城郡小川町 鬼 澤 悦 美
  - 同 四月一日 同 町 梶本 守 二 代田 好
  - 安達源三郎 高庭 宇作
  - 今井 宇平 飛澤真一郎
  - 廣澤音十郎 鈴木源一郎

### 統計調査員異動

(上は新任 弧括内舊)

- 昭和十年三月三十一日 東茨城郡縁附村 小林 幸次郎 (小林 信雄)
- 同 五月一日 久慈郡金鄉村 櫻井 喜代松 (和田 三代司)
- 同 四月廿二日 北相馬郡大野村 椎名 修一 (椎名 豊次郎)
- 同 三月卅一日 結城郡名崎村 赤須 眞隆 (關 康)
- 同 四月廿二日 行方郡潮來町 村田 長男 (石 津 保)
- 同 四月一日 鹿島郡息栖村 池田 岩次 (岡野 精作)
- 同 四月三十日 行方郡太田村 新堀 寛治 (新堀 總平)
- 同 五月四日 多賀郡關本村 鈴木 勳 (志賀 正夫)
- 同 五月十四日 同郡國分村 富岡 甲一郎 (和知 丙午)
- 同 五月二十日 那珂郡勝田村 平澤 勘治 (谷田部作次郎)
- 同 四月一日 全 郡野口村



村當局が統計事務の重要なるを意識し統計知識の向上發展及實地訓練等適切なる方法を講じつゝあるに因ること寔に多く、尙且本郡擔任係員の指導訓練の宜しきに依る賜と深く感じて居ります。

今後は一層奮勵、調査の正確、報告期限の嚴守に留意し御期待に反かざる覺悟であります。

### 重大なる責任と覺悟

新治郡九重 統計調査員 倉田 清之助

紀元節にあたり本縣統計協會總裁閣下より統計事務功績者として表彰せられ五月九日これが傳達式を土浦自治會館樓上に舉行し川崎課長殿より表彰狀並に記念品を拜受した事は身に餘る光榮であります、統計が各種の施設經營に重大なる關係を有することは今更喋々を要しませんが、淺學非才なる私如きが、今日の榮譽を擔ひましたことは

偏に郡係員及村主任の熱心なる指導訓練御後援の賜と感謝する次第であります、私共は爾今一層責任の重大なるを認識し統計事務の爲め全力を捧げ研究努力克く御訓諭の趣旨に従ひ村内調査員と圓滿提携、一致以て適確を期し榮えある恩賞の趣旨に背かざる様致したいと念じて止まざる次第であります。

### 舊記より

凡婦女分産の際稀に雙子又は三子等を出産する者有之兄弟姉妹の順次取定め方從來民間に於て産婆の妄説に泥み前産を弟妹とし後産を兄姉と唱へ來候趣甚た顛倒無稽に属し不可然と存候右等區々相成候ては不都合不懌候今後は前産を兄姉とし後産を以て弟妹と順次相定め候方可然と存候此頃伺出候向も有之候間此段相伺候早々御指令被下度候也

明治七年十一月二日 内務省 指令十二月十三日 伺之通前産の兒を以て兄姉と定候儀と可相心得事

皆川 直 (石崎 徳廣)	全	五月卅一日 鹿島郡夏海村
山口 濱吉 (小野瀬小一郎)	全	六月一日 結城郡宗道村
岩本 武夫 (堀江與四郎)	全	五月十六日 久慈郡世矢村
田所 進 (村田 常介)	全	五月十五日 猿島郡森戸村
佐怒賀新右衛門 (田村 藤市朗)	全	五月三十日 結城郡豊田村
山口 喜一郎 (山口作一郎)	全	長瀬 卯一 (大林 周作)
萩原 耕一郎 (塚本 貞吉)	全	六月一日 多賀郡磯原町
長瀬 康 (長瀬 鶴吉)	全	四月一日 筑波郡小張村
大山 好雄 (坂本 秀逸)	全	塚本 辰之助 (寺羽根 辰一)
寺田 俊雄 (宮田 市太郎)	全	六月五日 新治郡斗利出村
藤井 正親 (御田寺 義信)	全	六月一日 結城郡西豊田村
仲内長左衛門 (仲内常右衛門)	全	

## 最右翼は久慈の百十八萬圓

# 木炭總産額二百五萬圓

## 柴草と卑下すな年産四十七萬圓

### 林産 610 萬圓

本年六月十日、縣統計課の調査發表にかゝる昭和九年に於ける本縣の林野産物總價額は六百十七萬六千六百五十五圓(四割二分四厘)林野産物二百八十三萬八千九百十九圓(四割六分五厘)石材、土石六十七萬四千五百二圓(一割一分一厘)である、之を郡別に觀るときは久慈郡の百十八萬二千八百九圓が第一位を占め、西茨城郡の七十五萬三千六百六十六圓、新治

郡の七十三萬四千七百十九圓、那珂郡の六十四萬一千三十二圓、東茨城郡の五十五萬四千九百四十三圓、多賀郡の五十四萬四千七百四十一圓がこれに次ぎ、其の他は四十萬圓を超えず眞壁、鹿島、筑波、稲敷、行方、猿島、結城、北相馬の順位となつてゐる。更に之を公私有林伐採、林野副産物、石材土石別に示して

### 公私有林伐採

森林伐採面積は四千九百二十四町八反伐採總價額は二百五十八萬六千六百五十五圓にして之を前年に比べると伐採面積に於て四十五町五反(〇割〇分一

厘)を減じたるも伐採總價額に於ては十九萬二千六十七圓(〇割八分)を増加した、伐採面積が減じたのに反し伐採總價額増加したのは材價の昂騰したからである。

### 林野副産物

林野の副産物總價額は二百八十三萬八千九百十九圓にして内木炭二百五萬九千二百五圓(七割二分五厘)柴草四十七萬一千五百二十四圓(一割六分六厘)樹實

及樹皮二十八萬四千五百圓(〇割九分九厘) 第一萬八千六百七十八圓(〇割七分七厘) 松茸及椎茸三千八百八圓(〇割一分一厘) 其他五千八百三十九圓(〇割二分二厘)で、之を前年に比べると總價額に於て二十九萬二千五百八十二圓(一割一分五厘)を増し内木炭は二十九萬八千四百十九圓(一割六分九厘) 松茸及椎茸は九百七圓(三割一分三厘) 筍は百三十八圓(〇割七分七厘)を孰れも増加したが、柴草に於て六千三百五

石材土石

十六圓(〇割一分三厘) 樹實及樹皮に於て六十八圓(〇割二毛) 其他四百五十八圓(〇割七分三厘)を減じた。  
石材土石の總價額は六十七萬四千五百二圓で内花崗岩四十五萬八千二百四十五圓(六割七分九厘) 砂利十三萬三千六百三十七圓(一割九分八厘) 大理石三萬八千六百圓(〇割五分七厘) 粘土一萬七千五百一圓(〇割二分六厘) 其他二萬

六千五百十九圓(〇割四分)、前年に比し總價額に於て二萬五千八百四十三圓(〇割四分)を増加し内花崗岩五千七百五十一圓(〇割一分三厘) 砂利八千八百三十七圓(〇割七分一厘) 大理石四千九百圓(一割四分五厘) 粘土三千四百三圓(二割四分一厘) 其他二千九百五十二圓(一割二分五厘)の孰れも増加を示した。

關東一府六縣 統計事務協會議

去る四月二十四日より内閣統計局に於て開催された地方統計課長會議を機會として關東一府六縣の統計課長會合の上、統計事務刷新向上を圖るため種々協議をなし、地理的事情を等しくせる參集府縣が相互提携して協調するの必要を痛感し、關東區府縣統計事務協會議を設立することに申合せその初回を栃木縣に於て開催することに決定した、其の申合に依る規約大綱は次の通である  
一、目的 地理的事情を等しくせる府縣協調して統計事務刷新向上の範を示し、團結して統計施設改善充實の策を獻じ、併せて統計事務關係者相互の和親を圖らんとす  
二、區域 關東地方各府縣(東京、神奈川、千葉、埼玉、群馬、栃木、茨城、山梨、静岡)  
三、名稱 關東區府縣統計事務協會議  
四、會員 關東區府縣統計事務關係者  
五、會合 毎年一回二日間とし會合地(府縣)の順位は協議又は抽籤に依り決定す、但し特別の事由あるときは會合度數の増加又は會合日數の伸縮をなすことを得  
六、經費 開催地負擔  
七、役員 當該年度會合地(府縣)の總務部長、又は統計課長を司會者に推戴し、統計課長又は統計主任を以て當番幹事とす  
八、附記 本規約は昭和十年度より實施す



短歌

丹 四郎選

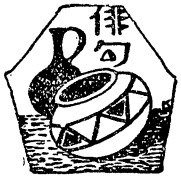
題 『青田』 『夏雜詠』

(賞)  
見巡れる青田の溝のせせらぎのさやにきこえて夕ひそかなり  
いさゝかの晝の休みに子らをゐて庭の實梅を吾は落すなり  
秀 逸 行方、武田 境 草 風  
除草器の手を休めつゝ東の間を憩ふ直ち青田涼風  
風呂出でて裸のままに水足らぬ門の青田の堰を見廻ら  
行方、武田 境 草 風  
稲敷の利根の岸邊を行くゝと青田はつきす大空のもと  
行方、立花 今泉 安之助  
豊なる年のしるしも見ゆるかなさとよりさととつづく青田に  
稲敷、太田 五十嵐 康尊  
病後の父の手を取りたくれの青田の風に吹かれ來にけり  
鹿島、中野 大川 貞一  
見るかぎりうゑわたしたる千町田のなべて緑になりにけるかな

田草取り五人六人うち連れて戻るゆふべを水鶏啼くなり  
あさまだき池のほとりにたゞのぼ音おもしろく蓮の花咲く  
川へののの青葉に止り居る蜻蛉のかげの水に映つれる  
夏作の調査に來ればわがノート汗のじみて字々へ分らず  
朝露に濡るゝ研録をうち振るひ馬草刈るなり小唄まじりに  
夕日照る青田の中を馬曳きて戻れる人の鼻唄うたふ  
田植時の忙しさもいまは過ぎにけり青田を渡る風眺めつゝ  
梅雨つきて日癖の南風強ければ店硝子戸を鎖せる日のつつく  
行方、手賀 會根 健而  
多賀、南中郷 瀧 千 俣  
多賀 緑川 荷舟  
久慈、小里 沼田 松元  
鹿島、沼前 川 澄 春暢  
稲敷、奥野 貝塚 苔人  
北相馬、大野 海老原 松光

次回 課題『初秋雜詠』 十首以内  
宛名 茨城縣廳内統計協會  
締切 八月二十日





前田 猶春選

題『金魚』『夏木立』

窓さきや風鈴の下の金魚玉 北相馬郡東文間 堀越 宵雪  
藻をよけて金魚の群の泳ぎけり 稲敷郡奥野村 吉田 逸桑  
しとくと雨降る中や金魚浮く 北相馬郡大野村 貝塚 苔人  
夏木立犬をつなぎて憩ひけり 稲敷郡太田村 五十嵐 康尊  
舞れて夏の並木のひそかなる 那珂郡藤郷村 高野 芳水  
猫のかけうつりて沈む金魚かな 同 青木 斗南  
金魚玉篠つく雨となりにけり 行方郡武田村 鳥次 ゆた香  
灯の下に金魚をりく身をかへす 同人

洲の鼻のばらく松も夏けしき 同人  
夏の木に笠をかけたる遍路かな 行方郡手賀村 曾根 健而  
水口に金魚あつまる雨もよひ 那珂郡野口村 西村 小雨  
汽車の煙流れて濃ゆき夏木かな 同 藤郷村 高部 樂風  
午ちかき診察室や 金魚玉 鹿島郡中野村 大川 貞  
深山路や驚なきて夏木立 同人  
噴水をしかけし池の金魚かな 稲敷郡奥野村 海老原 松光  
旅人の帽子かけたたり夏木立 那珂郡柳河村 木内 午藏  
玉と散る四度の水勢や夏木立 全 木崎村 小泉 古山  
夏木立馬をいたはる水邊かな 全 大宮町 和田 左門  
水替へて金魚大きく動きけり 同人

霽れや青々として夏木立 多賀郡南中郷村 緑川 欣一郎  
ゆらくと浮きては沈む金魚かな 行方郡武田村 境 勇  
かさくと風夕つきぬ夏木立 久慈郡小里村 沼田 松元  
夕浪に船ゆられ居て夏木立 筑波郡大穂村 柳町 涼風  
軒さきに雨よけて居り金魚賣 鹿島郡沼前村 川澄 春暢  
人ゆかぬ庚申塚や夏木立 北相馬郡菅生村 倉持 保光  
夏木立笠を忘れて人去りぬ 行方郡立花村 今泉 安之助  
河岸の家夏木に船をつなぎけり 鹿島郡豊郷村 石津 思水

秀逸(賞)

會津にあそぶ 行方郡武田村小貫 塙 草風  
ふるみちや飯盛山の夏木立

次號課題『蟬』『青嵐』

縮切 八月二十日 用紙 半紙二ツ折十句以内  
宛名 茨城縣廳内統計協會宛 賞 秀逸に粗賞を呈す



柳川

山中 緋郎選

題『講習』

講習が終へて嬉しさ顔に出し 那珂郡芳野村 綿引 よしを  
講習のみんな榮える事ばかり 西茨城郡北川根村 荻沼 白鷗  
講習を受けた甲斐あり米が穫れ 那珂郡柳河村 木内 紅楓  
講習へ去年の友に又出逢ひ 東京市神田區 加部 時春  
講師より老けた一人が手を舉げる 大阪市西成區 葵 徳三  
講習へ講師の癖を真似てゐる 那珂郡藤郷村 高野 芳水  
親と子が一所に並ぶ講習會 神奈川 小澤 茂坊  
講習へちと派手に來る未亡人 金澤市 奥田 綠水

講習へ半分義理の 額で 會ひ 那珂郡盛郷村 青木斗南  
 講習へさほる氣でゐて後ろに居 東京市本郷區 三條苦樂人  
 講習は理窟だけだと聞いてゐる 大阪市西淀川區 左 日の丸  
 講習へ留守居の女中のんびり居 京都府 黄金町 小島大口坊  
 講習の鼻汗にある 眞劍味 東京市 王子區 村上亘亨  
 お隣りと誘ひ合つてく講習所 那珂郡盛郷村 岡山北星  
 講習の料理 先生まづく喰ひ 北相馬郡文村 狸丸ピョン助  
 講習を受けて仕事に念が入り 稲敷郡奥野村 吉田逸桑  
 上着みなとれと講師は粹も言ひ 行方郡武田村 境 勇  
 講習の餘暇へ海水浴 もやり 名古屋市 西區 青野紫翠  
 スキヤー 實地指導も受けてみる

講習を受けて自信が強くなり 稲敷郡太田村 五十嵐康尊  
 講習の質疑同じ人ばかり 稲敷郡奥野村 海老原松光  
 脱線の講師へ拍手 まだ續き 行方郡武田村 塙 草風  
 水泳の講習みんな生白い 長野市 外架町 小林琴の舎  
 講習へ話の樂な講師もて 神戸市 須磨區 須磨浦人  
 十 秀  
 講習の訓示へしばし 緊張し 北相馬郡東文間 堀越宵雪  
 講習へやつぱり出来る飲仲間 東京市 神田區 加部言治  
 講習へ講師の若さ侮れず 大阪市 北區 北島仁昭  
 講習へ希望同じな 友に逢ひ 東京市 荒川區 木田蛙の子  
 講習の證書總代 羨やまれ 鹿島郡沼前村 川澄春暢

講習へ一人ほつちの里心 那珂郡木崎村 小泉古山  
 講習へ花を氣にして馬車に揺れ 東京市 王子區 日野櫻笑子  
 林間の講習とても忘れかね 鹿島郡豊郷村 石津思水  
 講習が終りミシンをねだられる 東京市 神田區 青柳秀男  
 講習は梅雨にそなへた母の會 東京市 荒川區 山川散戀華

講習へ片親の子の無欠席 東京市 芝區 本堂雪繪  
 講習を終へたその夜の行き所 地(賞) 名古屋市南區 佐々木鳳石  
 天(賞) 神戸市 須磨區 草薙眞一  
 講習の時間 短くペンを走せ

五 客

講習の通りに煮える 臺所 横濱市 磯子區 平井痴翁  
 講習を受けてつからの腕の冴え 行方郡手賀村 會根健而  
 講習の戻り 鯉を提げて来る 行方郡武田村 鳥次とり坊  
 編棒へ講習慣れのみめが出来 大阪市 此花區 加茂孟浪坊  
 講習へ来てテキストを買はせられ 京都市 下京區 宇の六相子

選 者 吟

速記者へ若い講師の氣が疲れ  
 あぶら蟬聽講生の氣がだるい

次號 課題『國勢調査』一人五句以内

用紙 葉書又は同型のもの  
 締切 八月二十日  
 宛名 茨城縣廳内 茨城縣統計協會  
 賞 三才粗賞を呈す

## 編輯後記

編輯を終つて、この後記を書く時になると、何時も同じやうな、何かしら寂しさに似たる物足らなきを感じる、何故か、何に原因するかは、自分にはよくわかるのだ。この上とも大いに勉強し、大いに努力して自信ある雑誌を皆様にお目にかけることとしませう。

本號は縣外視察記や、模範町村訪問記、秋の調べの注意、國勢調査などに、大部スペースをとつたので、折角讀者諸君から送られた感想や論文等、次號に譲つたのが澤山あります、御諒承を願ひます。

次號——九月號を皆様のお手許に差上げる頃には、秋季調査は本舞臺にはいらつとすし、國勢調査は間近くなるし、統計關係者が、眞の腕前を見せるのは此時です、共々一段の力を注いで有終の美果を収むるやう、今から細心の注意と準備をととの

へて、かゝることになつたしませう。

梅雨あけで、暑さはいよ／＼本格式になることとせう、山よし、海よし、近頃流行のサンド、スキー、いはゆる砂滑りなども、また結構でございませうが、我が親愛なる讀者諸君は、多くは農人でありませう、そして諸君は諸君のみが誇りうる、この大自然の景物に寝ね、景物に起き、景物に生きてゐるのです、山、海、砂、そんな個々の單純な風物を超越して。——富岡如夢——

## 茨城統計と 廣告の效果

「茨城統計」は縣下三百八十ヶ町村及び各市町村の統計調査員三千九百名は勿論縣下各種団体、會社、工場等に配付し、中央各省、道府縣へも漏れなく配付するものにて廣告の效果偉大なるものがあると信じます。

□本誌廣告料金は左の通りです。

特別（一頁）表紙裏表）金貳拾圓  
（半頁）同）金拾五圓  
普通（一頁）金拾圓  
（半頁）金五圓  
（四分ノ一）金參圓

□同一廣告を引續き二回以上の上ときは一割五分、五回以上の上ときは二割の割引をします

□廣告に寫眞挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けます

□廣告料は前納に願ひます

茨城縣廳  
茨城縣統計協會

昭和十年七月十三日印刷  
昭和十年七月十五日發行  
（隔月一回十五日發行）

一部金拾圓  
水戸市北三ノ丸茨城縣廳  
茨城縣統計協會内

發行兼編輯人 川崎末吉  
水戸市南三ノ丸一〇七ノ二  
印刷人 柴博  
水戸市南三ノ丸一〇七ノ二  
印刷所 柴印刷所

水戸市北三ノ丸 茨城縣廳内  
發行所 茨城縣統計協會